

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告

- 日 程：平成27年7月6日(月)～8月7日(金)
 - 会 場：上ところコミュニティプラザ 他14会場
(北見11会場・端野1会場・常呂1会場・留辺蘂2会場)
 - 参加者：450名 (H22：407名)
 - 参加者：255名 (事前申し込み197名 当日参加58名)
 - ・個人 71名
 - ・町内会関係者 50名
 - ・民生委員児童委員 44名
 - ・包括支援センター職員 37名
 - ・各種団体関係者 29名
 - ・事業者 24名
 - 策定委員 延べ79名
 - 事務局(市) 延べ93名
 - 社協職員 延べ23名
 - 実施形態：
第2期地域福祉計画及び地域福祉実践計画の説明後、座談会形式での意見交換
-

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.1 上ところコミュニティプラザ】

- 日 時：平成27年7月6日(月) 午後6時30分～8時30分
- 会 場：上ところコミュニティプラザ
- 参加者：22名・市民9名
 - ・委員 6名(照井・橋本・信田・前橋・柴田・三浦)
 - ・事務局 7名(高畑・高田・鈴木・持田・川口・今村・松尾)
- 実施形態：座談会形式での意見交換(グループ司会 ①照井 ②橋本)

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・教育面について、福祉のことを小さいうちからの教育を強化すべき。過程で教えていくべきだが、難しい面もある。
- ・子どもの教育も大事だが、親への教育も必要。すぐ市に文句を言えばいいという考えはよくない。
- ・親の問題は、あらゆる面で突き詰めていけば必ず出てくる。
- ・子どもが減少しており、1学年20人くらいしかいないというのが現状。小学、中学を上ところで過ごした子が北見の高校へ出ると、地域格差を感じる子も多い。

II 地域福祉のネットワークづくり

- ・福祉への市民側の意識も考えなければならない。
- ・上ところは地域のつながりがある方で、認知症捜索隊を結成し有志で回っている。地域でそのような活動を行っているのは上ところが初めてと警察の方が言っていた。
- ・町内会で一人の高齢者を複数で支援する体制を作った。
- ・個人情報に関係で、他の町内会へ広げていくことはなかなか難しいと思う。
- ・隣だけで支援していくことは難しい。
- ・平成19年の断水時は、当時の会長が動いて高齢者宅等へ水を運んでいた。
- ・昔から地域で何かをやっていくという土壌があった。
- ・民生委員の高齢化が問題と思う。いつまで高齢者宅を回れるか。またなり手もない。
- ・町内会で動いていると思うが、個人情報の問題がある。
- ・高齢者を支援しようにも、支援を必要としている独居老人を見つけるのが大変。
- ・地域のお祭りも大事である。祭りは、定住政策の基本で福祉に限らず、関係ない所がどんどんつながっていく。
- ・自助について、やる気があっても、やる環境がない。
- ・民生委員さんと自治会との連携だが、個人情報という大きな問題で止まってしまう。
- ・市で行っている要援護者台帳調査だが、若干ポイントがずれていると感じた。書きたいこ

とがなく、書きたくないことばかりが羅列されているように感じる。

- ・安心カードは有用だと思う。
- ・地域のベースは町内会。個人情報の守秘義務については、間違った認識が広がっている。
- ・上ところは町内会の組織のつながりはしっかりしており、どこに誰が住んでいて、どういう状況なのかということも把握している。例えば、雪が降ったからあそこのおばあちゃんの家を雪かきをしないとイケない、ということが自然にできているような状況。
- ・町内会の名簿についても、中には個人情報だから提供したくないという方もいるが、ここでの流儀ということでご理解いただいている。
- ・町内会の役員のなり手がだんだんいなくなっている。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・高齢者宅の除雪サービスを社協で行っていると思うが、上ところでも住民協働組織で行っている。除雪5回までは、1回1,000円の燃料代を出しているが、それ以上はボランティアで行っている。
社協の除雪とだぶって行ってもいいのではないかと。網を重ねるように支援していけばいいと思う。
- ・介護保険料の負担が上がり、若者が入ってこない。
- ・旭川では、介護保険料を下げて若者を呼び込んでいる。逆転の発想で、介護万全、病院や施設を確保して若者を呼び込んではどうか。
- ・介護施設等について、お金を巡らせるために人件費を増やしてみてもどうか。
- ・最近では、商品の配達サービスを行っているところもあり助かっているという人も多い。民間に頼るではないが、何らかの形で行政と民間がリンク、支援をしていくことが重要ではないか。
- ・これから高齢化が進んでいき、排雪を自力でできないという人が増えてくるので、どのような方法で排雪をしていくかというのが課題。例えば、置戸町では排雪口を設置している。
- ・吹雪の際は、透析患者やご病気の方は医療機関への交通手段の確保をお願いしますという旨を広報きたみに載せたほうがいいのではないかと。ある程度の自助も必要。
- ・高齢者の中にも、年金をもらって生活している人と、国民年金だけをもらって生活している人がおり、高齢者だからといって同じ条件ではないため、所得制限などを設ければよいのではないかと。

IV 暮らしを支える環境づくり

- ・ 地方分権と叫ばれているが、実態はそうではない。日本の形の中で考えていくべきと思う。
- ・ 中央（大都市）から高齢者を呼んで、ふるさと納税のようにお金を求めるような方策を考えてみては。
- ・ ふるさと納税について、北見は遅れているが、取り組んでいくべき。納税で1万円入って8千円記念品や特産物を返しても、地域にお金が入る。
- ・ 高齢者について、他県に施設を建設し、そこに高齢者を住ませ他県の住民を働かせている事例もある。
- ・ 定住政策は重要である。
- ・ 銀河線跡地を公園造成するのにワークショップを開いて、市へ意見等も出し、高齢者向けの歩きやすい歩道（ウッドチップ等）にしてほしい旨要望をだし、市が了承したのに、いまだに作られない。年次計画で行っていくとのことだが先送りされている。
- ・ フィンランドでは女性議員の声で、道路の縁戚を除いた。公園の話だが、市がそういった意見を取りこぼすのはよくないことだと思う。
- ・ 交通の便が悪く、交通弱者で且つ買い物弱者でもある。周辺にもコンビニしかなく、最低限のものしか揃わない状況。
- ・ 買い物に行くことができたとしても、荷物を持って帰ってくるのが困難である。
- ・ 車で移動しないと生活もままならないため、90歳になっても運転しているという人も中にはいる。
- ・ 北見市バス乗車証の見直しについて、なんでも無料で、全て税で負担していくというのは直していかなければならないと思う。
- ・ 例えば、自分で車を運転した場合は燃料代がおおよそ〇〇円かかりますが、バス乗車証を利用すると10分の1の〇〇円で済みますという風に具体的に料金を割り出して説明していけば、市民の理解も得やすいのではないかと。

V その他

- ・ 一般参加者が少ないと感じるが、周知方法が悪いのか。
- ・ 伝書鳩は見る人、見ない人がいるので周知について効果が薄いのでは。
- ・ 地域福祉計画について、策定の背景は行政としてどうするのか。
- ・ 新たに計画を整備するために、こういった方法で行うといったことを提案することはありだと思う。

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.2 端野町公民館】

- 日 時：平成 27 年 7 月 8 日(水) 午後 6 時 30 分～8 時 30 分
- 会 場：端野町公民館
- 参加者：20 名 ・市 民 7 名
 - ・委 員 6 名（照井・三浦・山本・前橋・柴田・大友）
 - ・事務局 7 名（高田・竹中・川口・今村・松尾・菅原・佐々木）
 - ・社 協 2 名（伊藤・木村）
- 実施形態：座談会形式での意見交換（グループ司会 ①照井 ②三浦）

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・高齢者と子どもが交流する機会や手段があれば、もっと高齢者への理解が深まる。
- ・老連は「奉仕」を目的にしており、地域の福祉の担い手として期待されています。今後をもっと期待されると思う。
- ・私は退職後すぐにボランティアに登録した。自分がいずれ年を取ったら、みんなにお世話になるのだからと思って、やれるうちは自分もお手伝いしようと思った
- ・今はボランティアの範囲も広がっている。福祉だけではなく、観光分野など。以前はボランティアと言えば、無給で自主的な活動と言われていたが、今は有償ボランティアも増えている。交通費の負担やワンコイン（500 円）などで、今本当に困っている人への無償のボランティアは上下の関係、有償ボランティアは横のボランティア、平行ボランティアとも呼ばれている。
- ・東京など都会で子供がボランティアをすると、ボランティア預金としてたまり、地元に残る高齢の親にサービス提供を受けられるという仕組みなど、ボランティアの形も変わってきている。
- ・子供たちがボランティアとして活動できる場がもっと広がればいいと思う。ボランティア登録するにも学校の許可が必要など、まだまだボランティアしやすい環境とは言えない。
- ・老人クラブの異世代交流事業をもっと進められるといい。
- ・学校でもっと、ボランティア活動を推奨してはどうか。
- ・ボランティア教育や、福祉的視点など、結局は家庭でどう子供に伝え、育てるかということにつながる。親がどう育てるか。
- ・人づくりは本当に難しいので、計画的に進めなければならない。
- ・老人ホームへの子どもの訪問など交流があるが、行政全体の交流推奨を目指していけばいい。
- ・役員のなり手が出てこない。

Ⅱ 地域福祉のネットワークづくり

- ・今は、老人クラブの役員をしているが、老人クラブは70代は若手で、65歳ではまだ加入しない。70歳を過ぎてからスタートし、上は90歳くらいまでいる。どのように会員のためにやっていくか、何とかしたいと思っている。
- ・老人クラブ内で「最近あの人来てないね」と自宅を訪問し声をかけあうこともでき、大きな街場と比べるとまだ支え合っている。
- ・端野でも、遠い地域に行くと隣の家が遠く、高齢者同士でも目が行き届かなくなっている。
- ・社協の食事会や、敬老会に年に数回でも行けたら、社会と交流ができるのではないかな。
- ・高齢者を連れ出す手段を考えることが必要。
- ・地域の人が地域のことに詳しい。その地域の元気な高齢者が遠い地区の高齢者をどう助けるかだと思ふ。
- ・災害のことを考えると、若者と高齢者をどう結び付けていくかが重要。10年後の後期高齢者をだれが支えていくのか。
- ・災害に関しても個人情報保護法を誤解している方がおり、状況を話してもらえないことがある。
- ・息子に教えたらだめだと言われていると言って何でもかんでも教えるのを拒否する方もいる。個人情報保護法についてわかりやすく住民に伝えてほしい。
- ・端野でも川向地区では、赤い羽根の助成金を出して、自治会で除雪を分担して行っている。
- ・老人クラブも若い人が入ってくれない。自分が入ったのも73歳頃。まだ4年目で若手。それまではボランティアや子ども会の役員などやっていた忙しかった。
- ・老人クラブも役員をやるのが嫌だから入らないという声をきく。町内会に入らない理由と似ている。
- ・ふれあいサロンを行っているが、次のなり手がいない。たくさん行いたくても端野はタダで使えるところがなく、会場使用料も3割減免が限界だし、つらい部分もある。
- ・サロンは男性が少ないので、男性にももっと参加してもらいたい。
- ・女性はなんとかできるが、男性の独居は関わりをもつことも難しい。
- ・公営住宅をさかんに建てているが、一角を高齢者等のサロンを作ればいいのでは。
- ・都市部では、新たに老人クラブなどができているらしいが、進めていくべき。
- ・だんだん横のつながりが薄れてきている。
- ・草刈不参加の高齢者に負担を求めて、だんだん町内会から抜けていく事例もある。
- ・民生委員の手当（事務経費）が少ない。
- ・民生委員の扱いが自治区で異なっている。北見と三自治区では町内会との関わりが違う。
- ・住民協働組織がなくても、地域が機能している地域もある。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・社協の北見でボランティアに登録し活動を行っていた。大きい組織なので勉強できることも多くあった。今は、端野のサークルをどう回していけるかを考えてる。
- ・端野は社協独自に見守り事業もあり、端野の社協がおさえてる情報がたくさんあり、相談があった場合には必ず確認させてもらっている。
- ・逆に社協の依頼で高齢者宅を訪問することもある。端野はより良く高齢者の状況を確認できている地域だと思う。だから独居の方でも生活できているの。
- ・老人クラブに、介護予防の講話などに行くが、みなさん結構高齢だが、意欲的で活動的。パークゴルフやゲートボールを始め、クラブの活動にも積極的。
- ・ヘルパーの買い物支援でも介護保険サービスの限度額があり、遠くの地域からお店まで出るだけで時間を使ってしまい十分に支援が行き届かない。
- ・二区の自治会では年4回ほど高齢者の食事会という行事を行っているが、会場まで来られないという人が出てきたため、平成25年度から市の福祉バスで送迎をするようになったら出てきてくれるようになった。
- ・セブンイレブンの宅配事業など、行政とコンビニが協定を結んでいるところもある。行政単独で山奥の地域まで入っていくことには無理がある。
- ・来月から介護保険の利用料も現役所得並みの方は2割負担になる。
- ・負担は大変なことだけど、行政にばかり頼ってはならない。行政、社協と住民が一体になってやらないと。行政職員と付き合いいくと一緒にやろうと考えてくれる人が多いので、行政と一緒にやらないと。今の市議会は変なところで火がついて肝心の議論ができていない。もっと市議のレベルを上げてほしい。
- ・社協では安否確認サービスや、除雪サービスを無料でやっているが、登録がすごい件数になっている。簡単に「息子は仕事しているから頼めない」といった理由で登録を希望する方が増える。いくらかでも負担してもらうべき。
- ・安否確認サービス（ヤクルト配布）もヤクルトもらえるから登録しているという人もいて、これでは本来の安否確認の意味がない。見直す時期ではない。
- ・高齢者は10cm積もると歩けない。でも除雪サービスの出動基準は20cm。
- ・介護保険が始まった時は働いていたが、個人主義の風が出てきたと感じる。縦割りの話が出ているが、障がいのある方が高齢になって、金がなくなってきた。相互理解が必要。
- ・サービス料が高い。田舎だとデイサービスなど前よりは来てくれるようになったが、ショートステイの施設ができればいい。
- ・一人親に対する支援、対策はどうするのか。特に父子家庭は大変かと思う。
- ・里親制度の見直しを。18歳になったら施設を出なければならぬのだし、教育委員会は問題を隠したがるし、問題が大きくなると動かない気がする。

IV 暮らしを支える環境づくり

- ・スクールバスの利用は可能だが、スクールバス停まで行けないために敬老会にも参加できないという方がいる。
- ・バス停まで行ける支援をできないかと思う。
- ・遠くの地域の交通手段、買い物難民の話題は必ず出てくる。
- ・バス停まで出られない人をどうするか、アイデアとして移動販売車などはどうか。
- ・移動販売車となると、市で運営するのは現実的ではなく民間でやるしかない。
- ・弱者や高齢者に手厚くボランティアが入れるような仕組みを作る必要があり、そのための補助（お金）も必要。
- ・買い物難民の話題だが、常呂ではスーパー1つ、コンビニ2つ、コープが注文販売を受けており、時々移動販売車も来ているのでそれほど問題になっていない。
- ・遠い地域の方の移動手段について、民間のみに任せられるでしょうか。行政で車を走らせるなどの方策は。
- ・端野は地域に密着している自治区なのでそこはいいところだが、高齢になると山の地域の足の不便さ、バス停までの足の確保は本当に課題だと思う。
- ・福祉センター（社協の入っている建物）がスクールバスの待合室になっているが、朝の登校時間の後は夕方までバスがない。高齢者の方の病院受診は昼には終わっているため、バスの待合室で2～3時間待っている状況。市の無料バス券もバス停まで出てこられないので使えない現状がある。
- ・旭川では一部負担金があったと思うが、北見市の無料バスもスタート当初は3～4千万の委託料だったはず。必要な人が使う制度にするために、なんでもタダではなく、負担することで、その制度の意義も市民に伝わるのではないかと。行政に頼ってばかりの意識も変わるのでは。
- ・家からバス停まで行く手段を考えなければ。
- ・市内を走る路線バスに朝夕の通学時間は別として、日中は5～6人しか乗っていない。あれこそ無駄。もっと小さなバスにして、回って歩くことはできない。国の補助金も使い方を地域ごとに検討すべきで。
- ・常呂からバスで北見まで出てくるのに片道約2,000円かかるが、無料バス券があるから助かるという声は多くある。
- ・これから高齢者はどんどん増えるから、タダではダメじゃないか。個人負担も必要。年金が少なくなっても必要などころには払うことが必要。
- ・田舎だから高齢者が多いので、交通手段が不便。バス券よりタクシーの方が使いやすい。
- ・民生委員をやっているが、交通弱者、買い物弱者、病院弱者という言葉は入れるべき。
- ・公営住宅に集会所はあるのに、実際に使われていない気がする。
- ・複合施設を推進したらいいのではないかと。
- ・高知では、団地にケースワーカーを住まわせて高齢者を呼び込んでいる。複合住宅を目

指していくべき。

- ・孫が3人いるが、老後面倒をみてくれと言ったら「老人ホーム」に入ればいいと言われた。社会全体が変わった。
- ・公的施設、無許可の物があるが、行政ではおさえていないとダメなのは。無許可だからわからないでは、事が起きた時では遅い。

V その他

- ・計画でたくさんの項目を羅列し、素晴らしい内容であっても具体的にするにはどうするのが見えてこない。
- ・この第2期の計画は国の言っていることをそのままなぞっただけか。
- ・第1期の計画の時に、策定委員が手書きしていったもので策定しており、国のひな形等を丸写ししたものではない。
- ・計画の内容を全部実現するのは無理なので、北見市の重点を決めて実現に向けて着実に進めた方がいい。
- ・なんでも全部やるのではなく、もう少し重点をしぼってやった方がいいと思う。一つ一つ解決に向けていく方がよい。
- ・懇談会について、端野会場は1回のみですが、2回ぐらい設定してもらうなど、もっと一般の人が参加してくれるよう考えてはどうか。
- ・地域福祉実践計画に、民生委員に関わるものが入っていない。
- ・障がいの「がい」の字が漢字になっているところがある。
- ・行政は縦割りなので、計画の連携ができるのか。
- ・障がいのある高齢者を計画に盛り込んでほしい。既存の計画には触れていないのでは
- ・障がいの害を外すにしないでほしい。

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.3 西地区住民センター】

- 日 時：平成27年7月9日(木) 午後6時30分～8時30分
- 会 場：西地区住民センター
- 参加者：25名・市民13名
 - ・委員 5名（照井・高廣・橋本・櫻井・三浦）
 - ・事務局 6名（高田・森谷・川口・今村・松尾・青木）
 - ・社協 1名（坂本）
- 実施形態：座談会形式での意見交換（グループ司会 ①照井 ②橋本）

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・教育の実態がわからないので、意見を求められてもわからない部分がある。
- ・特別支援学校の子を、普通学級に入れるべき。

II 地域福祉のネットワークづくり

- ・包括でこういった事についてノウハウがなく動くことは出来ないが、そこへつなぐ役割を担っていると思う。
- ・自分の所属する町内会では、あまり独居や障がいの方の把握をしていない。
- ・郡部で、町内会の活動は活発に行っているようで、多数の人が集まるらしいが、若い人が入ってこない。ぼんおどりなど単一町内会で続けるのが難しいので連合町内会で行ったが、人が集まらなかった。若い人が入ってくる何かいい方法はないのか。
- ・個人情報の問題で、なかなか町内会の情報を把握できない。
- ・町内会費を徴収に回る負担がある。
- ・町内会費を月払いにすると、徴集した際に見守りの効果もある。柔軟に対応していければいい。
- ・町内会の役員が頻繁に回り番で変わっていくところもあると聞く。
- ・新しく町内会に入った家族を集めるにはお祭りが効果的だった。おどりに参加しないが、抽選会を開くと参加してくれた。
- ・敬老会の負担がかなり大きい。町内会で誰が対象か把握することが難しい。名簿を作成したり、民生委員、町内会で連携することが大事。
- ・民生委員が誰かわからない。町内会エリア、学区、住民協働などエリアを一致させてほしい。
- ・鹿児島では、年少者犯罪率が低い。エリアの設定を、学区で設定してほしいし、学区でも大きな通りをまたいで設定しているところもあるので、全庁で一致させてほしい。
- ・小学校を住民協働組織と分けてやったが、やっていない町内会もあった。

- ・町内会活動も縮小し、経費負担が大きくなってきている。
- ・当初の補助金の目的からずれていると思う。
- ・活動をしているところはいいが、活動していない問題が出てきている。子どもから高齢者まで交流しているところもある。協働という言葉からかけ離れてしまった。
- ・町内会の役員のなり手がなく、町内会の崩落につながる。自分の町内会は高齢化率が47%で、10年程度で限界集宅になると思う。住民はいまいち関心がなく、懇談会開催のチラシを回覧しても誰も参加しない状況。いかに市民を巻き込むかが大事。
- ・若い人は、仕事もしており、町内会活動ができない。
- ・周りの中で、3回も主人を亡くした家がある。その方に対しては、訪問したり声かけたりしている。
- ・向こう3軒両隣の精神は今はないと思う。見守り隊を結成したことがあるが、中には、あの人と関わりたくないという方もおり、うまくいかない。
- ・個人情報に神経質になりすぎな部分がある。
- ・会員カードも、本来違反ではないが、中には拒む人もいる。個人情報の取扱について、広報きたみや伝書鳩に掲載してもいいのでは。個人情報保護法を勘違いして認識している人が多い。
- ・町内会で集まるような場所があるといい。ほかの人と接する場所が欲しくて、サロンに通い始め、息抜きができた例もある。町内だけに限らず、いろいろな町内合同で通えるサロンがあるといい。町内の人しか参加できないサロンが多い。
- ・町内会の経費を使っているため、他の町内会に入れないという現実がある。社協としても、町内会だけで行わない様働きかけや呼びかけを行っている。
- ・サロン活動の申請について、簡素化してほしい。
- ・サロン活動の他都市の成功事例などを紹介してもらった方が、具体的に活動しやすい。
- ・地域の最小単位は、町内会だが、その町内会が高齢化で、これからの時代は、行政に頼り切りでなく、自分たちで協力していかなければならない。
- ・住民懇談会に、関係機関ばかりしか参加していない。
- ・申込方法が複雑なので、もっと簡潔な方法がよい。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・母は若葉に住み、自分は三輪に住んでいる。包括支援センターに助けられた。自分がけがをした際、介護に困ったが、情報収集するうえで助けられた。サービスによって最低限の金額で済んだ。
- ・派遣労働をしているが、いつ働けなくなるかわからない。社協のお金を借りるために保証人が必要なため、借りられなかった。セーフティネットとしての位置づけとしてそれはどうなのかと感じた。
- ・お金を借りられないと、犯罪に走る可能性もある。
- ・ハローワークの開業時間を広げてほしい。働きながらの職探しは難しい。

- ・道社協で生活困窮資金が始まったが、完全にはうまくいっていない。
- ・たとえば年金と保護の差額をもらえる仕組みがあるが、そういった制度を知らない人が多い。
- ・月6万円で生活をしている高齢者がいる。生活保護は通帳を見せたくないので申請しない人もいる。
- ・広報を見ていない人が多い。
- ・広報に専門的な用語が多い。
- ・広報もいらない、構わないでほしいという人も多い。しかし、そういった人が孤独死につながっている。孤独死が出ると、町内会としても困るし、そういった人は逆にかまっていける。
- ・救急車が来ても、重篤で無い限り日赤に運んでもらえない。何のためにあのような立派な病院を建てたんだという気持ちになる。
- ・相談するにしても、どこに相談していいかわからない。
- ・介護予防に重点を置くべき。
- ・広報きたみについて、もっと字を大きくわかりやすくしてほしい。

IV 暮らしを支える環境づくり

- ・買い物難民やバス停までの距離が遠くバスを利用できない方もいる。
- ・北見でも、困って移動販売車を利用している人もいる。
- ・若葉では、一気に高齢化が進み、免許も返却する風潮がある。ドラッグストアができ助かっている部分がある。
- ・生協に依頼すれば、ある程度回ってくれる。
- ・採算の問題もある。買い物する楽しみもあるので移動販売等広がってほしい。
- ・配達してくれる業者へ補助するのも一つの手では。
- ・バス券はあるが、バス停まで行けない人もいるので、タクシー券を出してあげればよい。ひきこもりの解消や、老人クラブへの入会も期待できると思う。
- ・高齢者は通院するのに、バスが必須であるので、小型バスで個別に回る仕組みづくりをしてほしい。
- ・せっかくバスがあるのだから、たくさんの人に利用してほしい。
- ・団地が多く、入れ替わりがある事情もある。戸建なら定住してくれるが。
- ・アパートが多い地域では大変と思う。IV・せっかくのいい機会なので、強制的にでも集めた方がよい。市民の意識の低さがうかがえる。
- ・住民が、被害者意識ではどうしようもない。自分たちでまず考えることが大事。
- ・バス券について、タダなのは問題がある。
- ・要支援の方は、通院費が基本的に出ない。バス停が近くにあったとしても、それでもバスの乗り降りができなく、結局タクシーを使う方もいる。

- ・バスで街に行っても、街には何もないような状況と思う。
- ・街の中の作りを考えた方がいいのではないか。街の活性化。

V その他

- ・行政、事業者、社協の横のすり合わせができていない。

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.4 留辺薬町中央公民館】

- 日 時：平成27年7月13日(月) 午後6時30分～8時30分
 - 会 場：留辺薬町公民館
 - 参加者：49名
 - ・市民 35名
 - ・委員 4名(照井・三浦・戸田・荒)
 - ・事務局 8名(高田・持田・川口・今村・松尾・鈴木・松橋・近井)
 - ・社協 2名(近藤・横田)
 - 実施形態：座談会形式での意見交換(グループ司会 ①照井 ②三浦 ③荒)
-

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・勤めている人で、挨拶もろくにせず除雪もしないで行ってしまう。
- ・これから大切なのは、子育て。次の世代のことを考えていかなければならない。
- ・5、10年後のことを考えると、留辺薬の人口はどんどん減っていく。しかしどうすればいいかとなると、特に意見は出てこない。
- ・若い人が来てくれればいいが中々こない。何かいい方策はないのか。
- ・年寄りがいるから邪魔という事ではなく、年寄りがいることで、この事業ができるということを考えるべき。
- ・介護の現場では、なり手がいない。賃金の問題や精神面でも、一朝一夕でできることではないので、そこは教育が必要。介護の仕事はこれからは正念場なので、人材育成に力を入れていきたい。
- ・介護職の人は、仕事につくまでは情熱をもって取り組んでいる。
- ・年寄りというだけで福祉の対象とするのは間違い。年寄りでも健康でサービスを必要としない人もいる。

II 地域福祉のネットワークづくり

- ・社協や、シルバー人材で除雪を行っているが限度があり、上ところでは有償ボランティアを行っている。
- ・隣同士で除雪を助けることがあるが、断られたところもあり、どこまで踏み込めばいいか。
- ・町内会単位でシステム立てて動くのがいいと思う。
- ・できる人もたくさんいると思うが、見て見ぬふりをする人も多い。除雪業者の話も聞いてみるべき。
- ・自治会が活発な所は協力してやっているが、そうでないところは頼りすぎ。留辺薬は

かなり力体制はしっかりしている。

- ・ 留辺蘂は自治会が基本。おせっかいお婆さんはうるさかれるが、福祉にとってありがたい。
- ・ 町内会とそこが結びつけばいい。そこに向かっていかないと悪い方へ行ってしまう。
- ・ 高齢者の中でも、恵まれている人とそうでない人に差がある。突っ込んで話を聞かないとわからない。この地域は恵まれていると思うが、一転恵まれている人だと思ったら実はそうでないこともあり、思い込みがある。アウトリーチという言葉があるが、行政だけでなく、みんなで手を伸ばしていったらいいと思う。
- ・ サロンは集まる機会ができていいものだと思う。
- ・ 町内会などには情報が入ってくる。それを共有していこうとしなければ、安心、安全な地域にはならない。
- ・ 合併前に商店街で集まって話したことがあるが、みんな本音で語らなかった。
- ・ 情報共有をはかって、どう進んでいくか「福祉とスポーツのまち」でこの町をつくる。意識の統一を図って取り組んでいかなければならない。
- ・ 老人クラブに入会の勧誘を行う事も福祉の一環と思う。
- ・ 一番心配なのが、年金暮らしの高齢者の子ども。
- ・ 昭和から平成になり、施設福祉から在宅福祉に移行している。単身になったら誰が面倒を見るのか。在宅福祉には限界がある。最後はどのような所で、誰が対応するのか。一人暮らしの対策が必要。
- ・ 自治会がベースとなってRネットを立ち上げた。東京都中野区は名簿の提供も行っている。自治会・民生委員・行政も協力し地域の支え合いを行っている。留辺蘂自治区は北見市の中でもやりやすい環境にあると思う。安心して住める留辺蘂になれば、おのずと北見市にも発展するのではないか。そういう計画にして欲しい。
- ・ 名簿の関係で、昔は役場から提供してくれたが今は個人情報の関係で出来なくなった。
- ・ 孤独死等については、見廻り隊を作って対応しているが、それでも3日間孤独死を見逃していたケースがあった。自分たちだけでは、限界があるため、自治体に動いてもらいたい。
- ・ 周りだけではなく、一人暮らしをしている本人の意識を変えることも大切。地域によっては隣近所がない場所も少なくないため、自覚を持ってもらえるよう同好会等の団体を通して、呼びかけていければと思う。
- ・ 自治会長は、民生委員が活動しやすいように協力すべきではないか。
- ・ 個人情報保護法について町内会の皆さんは誤解されている。何に使用しますといった決まりを設ければ個人情報を利用しても問題は無い。V・行政、社協、民間の三位一体で進めていく。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・ 高齢者のゴミだしと床屋が少ない。買い物弱者の支援、商店街の縮小が問題。ラルズ

等で対策を検討している。

- ・福祉に頼りすぎている部分がある。家族が近くにいるのに、なんでも頼るから財政が圧迫する。自分でやれるところは自分でやるべき。若者にもっと目を向けるべきだし、使うべき。
- ・人口が減って若者が参加してこない。1番のネックは大したこともやらないで、行政からお金をもらっている人たちがいる。
- ・昔でいう、便利屋さんみたいな人に市から助成をしてもらうことは出来ないのか。
- ・制度を知らない住民がいるのは事実。広報等利用して周知が必要。例えば、耳の不自由・マタニティ等のマークが分からない人が多い。みんなが見たくなるような広報を作ったらどうか。
- ・現在、福祉関係のたよりを2ヶ月に1度発行する予定で検討を進めている。また、健康推進事業に関しては、65歳以上の方を対象に体力測定事業も企画している。申込があった団体へ移動体力測定を予定している。
- ・ふまねっとやろう会を立ち上げた。介護予防・認知予防につなげたい。十勝のある町では社協とタイアップして広げていこうとしている。市の計画に取り入れて欲しい。
- ・体力測定とふまねっとをタイアップしたらどうか。
- ・予防対策としては、良い事業である。先日、インストラクターの講習会があった際に、包括の職員も何名か参加した。今後取り入れていきたいと考えている。
- ・住民から介護保険の相談が多い。健康な方は、介護についての知識を持っていない。内容・相談先等、広報で周知するのはどうか。
- ・杖の給付も、昔は数十本と交付していたが、今は数本である。制度を知らない人が多いのではないかと。先進地を見て、北見市でも考えてもらいたい。

IV 暮らしを支える環境づくり

- ・駅前と駅裏を中心に留辺蘂を発展させていきたい。
- ・無料バスだけでなく、タクシーなども使えないかという話が出たが財政面が厳しい。
- ・バスの停留所が変わり、便利になった人もいれば、逆に不便になった人もいる。
- ・留辺蘂は、国道を挟み利用しづらい部分もあり難しいところもあるが、対策を考えないと、配送サービスがなく、不公平感がある。100%は無理でも60%なりの成果を出すために、意見を取り入れてほしい。
- ・通学路は、そこに住んでいる人が除雪するのはどうか。
- ・重機が国道を除雪するときに歩道に雪を置いていく。かたくて除雪するのは厳しい。
- ・若者が来るようにするにはどうすべきか考えなければならない。
- ・空家の問題、長い間空家になっていると危険がある。
- ・留辺蘂だけでもだいたい100戸ほどある。更地にすると固定資産税がかかり壊せない。
- ・冬の場合、空家の屋根の雪が非常に危険。

- ・買い物が大変。お店まで行くことはなんとかできるが、買った後持って帰ることが非常に大変。
- ・バス券の存続を非常に心配している人もいる。
- ・買い物バスを市で走らせることは出来ないか。
- ・北見バスは、どうしても本数が少なく、朝出かけるとしばらく帰ることができない。
- ・バス事業は、とにかく長い期間続けてもらいたい。
- ・除雪の問題で、細い枝道沿いに住んでいる人は除雪車が入っていないこともあり、出てくるのが大変。
- ・前に、空家の屋根がはがれ隣家の窓ガラスが割れトラブルになったことがあった。
- ・空家の所有者に、将来的にどうしたいのか希望を取ることは出来ないのか。
- ・住環境を含めて、若い人にきてもらえるよう考えなければならない。

V その他

- ・行政は意見を広く取り入れるというが、前に出て聞きに行くことはほとんどない。
- ・火葬場を、常呂と留辺蘂の物を北見に移すという話が出てるみたいだが、声を大にして言わなければ職員も自治区間の隔たりがある。
- ・市議もただ揉めるだけでなく、市のことを考えてほしい。
- ・2期目に作成した計画が本当に実践されているのか。市は金を出して社協に丸投げしている。
留辺蘂はRネットでも進めてきた。
東京都中野区では、地域支え合い活動として、職員がゴミ捨てを率先して行い安否確認も行っている。
- ・社協の会費について、留辺蘂ではほぼ納められているが、北見自治区では現実集められない。
- ・計画が立派でも、実践できるかが心配である。
都会では孤独死が増えている。他の自治会で孤独死があり、1週間分からなかったことがあった。私の自治会では、H20 頃から住民に呼びかけを行い、人の集まる機会をつくり、名前と顔を覚えてもらっている。計画に孤独死対策の具体的な方策が必要。
- ・計画は市、実践は社協というのは矛盾している。
- ・福祉計画に基づき、実践計画を進めていくと思うが、行政がすすめていく施策については、実践計画にそって行われているのか。
- ・実践計画については、社協が行っているが、社協に丸投げしているというわけではない。
- ・策定については、新しいものを常に取り入れていかなければならない

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.5 常呂町公民館】

- 日 時：平成27年7月14日(火) 午後6時30分～8時30分
- 会 場：常呂町公民館
- 参加者：27名
 - ・市民 10名
 - ・委員 6名(照井・橋本・石井・山本・柴田・三浦)
 - ・事務局 9名(高田・持田・川口・今村・松尾・青木・表・中原・桑島)
 - ・社協 2名(小山田・佐藤)
- 実施形態：座談会形式での意見交換(グループ司会 ①照井 ②橋本)

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・ボランティアなど人材が必要だが、若者が集まらない。年2回窓ふきボランティアに子供たちが参加してくれるが、卒業すると町外へ出てしまう。
- ・網走から常呂に引っ越してきたが、今でいう女性会に参加していた。担い手づくりが大事だと感じた。
- ・生涯学習など、学ぶ場を取り入れて、小さいうちから福祉の教育が必要
- ・社協のボランティア校や、ネイパルクツッピーで体験していると思うが、その体験した子が次につながってほしい。
- ・子どもたちは、町内会活動に呼べば参加する。その子たちの親が参加してこない。
- ・働き盛りのころは、中々活動に参加するのは難しい。
- ・市内の学校のほとんどが、福祉授業、教育に取り組んでいる。自ら体験するなど受けた教育が普段からすぐ出せばいいと思うが。
常呂小は昨年、ボランティア指定校で積極的に活動していた。

II 地域福祉のネットワークづくり

- ・町内会長だが、近くの方とトラブルが起きたことがあった。塀を壊してしまい、その方の情報を民生委員と共有したかったが、個人情報のからみで共有できなかった。
- ・老人クラブの中では話しやすいが、民生委員とは情報共有が図りづらいので、どう動かすか行政で示してほしい。
- ・常呂の北進町地区は、市から重機を借りて除雪を行い、燃料費などは町内会費で賄っている。
- ・独居の方で頼りたい人と頼らない人がいる。ごみステーションの設置や除雪など申請の手伝いをするも、中々申請しない人もいて、その見極めが難しい。
- ・見つけるのは、家族、隣近所だと思う。頼れない真面目な高齢者もいる。

- ・だんだんと町内会で葬儀ができない状況になってきている。
- ・町内会でも格差が出てきた。かつての向こう三軒両隣は難しくなっている。
- ・町内会に関わらない若い社会人が増えてきて、町内会費を集めるのも大変。
- ・個人情報保護の問題で、手引きを見ると、それほど神経質になる必要がないように思える。が、町内会でどこまで踏み込めるか、また理解できない人もいることも事実。
- ・安心・安全カードは有用的。
- ・地域によっては、カーテンの開け閉めで、最低限の安否確認を行っているところもある。
- ・薬局と包括で心配な人を情報共有をする取り組みを始めたが、そこでも個人情報が絡んでくる。
- ・薬局で、大声で薬の説明をされると、病状とか周りにわかってしまう。それも個人情報では。
- ・町内会の中でも高齢化が進んでおり、認知症の方も増えてきているので、そういう方を支えていくためにも、知識や技術をもった人に依頼するなど、みんなで支えていけるような仕組みをこれから考えていかないといけない。そうもしないと、町内会長の負担が大きくなり、なり手がどんどんいなくなってしまう。
- ・自分は町内会長をやっているが、誰かが引っ越してきたり、不審者が出た場合でも何も情報が入ってこないのが実状なので、せめて町内会長だけにでも情報を流して欲しい。特に、一人暮らしの方だけでも情報は把握しておくべきだと思う。
- ・昔は町内会に名簿があって、どこに誰が住んでいるかがわかったが、今はなくなってしまい、知らない人がいたりする。個人情報よりも住民の安全の方が大事なのではないか。
- ・町内会が希薄になってきているので、例えば、地域で支援が必要な方と、その人と住民の関わりをマップにして、支援の欠けている地域を把握するといった「支えあいマップ」を作ろうという動きが民生委員の中で起こってきている。
- ・実際に支援が必要と思われる人の所へ訪問しても、本人が必要とないと言って追い返されることも多い。家族が困っている場合でも本人がサービスを受けることに反対してしまう。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・業務として、高齢者の相談を受けるが、多い内容は介護保険制度のこと。答えに困るのは施設や、高齢者住宅に入りたい方で、常呂にいたくても住宅がなく、北見にしかないとすると北見には行きたがらない。要望があっても希望に添えないことがある。
- ・常呂は網走に比べてヘルパーなどのサービスが遅れている。あと買い物難民の問題もある。
- ・リハビリ型通所など、北見にはあるが常呂までは及ばない。北見から常呂までの送迎はやってもらえない。移動販売はやっているが、買う人がいないと時間の問題もあっていけない。社協でお出かけ昼食会を行っているが財源がない。高齢者の中でも、迷惑を

かけたくない人もいる。

- ・常呂で、自宅で看取ることができたのは、厚生病院があり、医療と福祉がうまくつながっていたからだと思う。
- ・サービスの種類が少ないと思う。厚生病院や特養もあり水準が低いわけではないと思うが、今後施設の整備が必要となってくると思うが、職員の確保が課題。
- ・特養があるから整備されているとみなされると、要支援1、2の人はどうしたらいいのか。1、2でも支援が必要な方や見守りが必要な方もいる。
- ・緊急通報システムがついていても、夜中は迷惑になると押さない人もいる。
- ・高齢者相談支援センターに勤めているが、認知症の方も多く、さまざまな病気の方もたくさん相談に来るが、人手も充実しているとは言えず、限られた時間の中で相談を受けて支援をするというのはかなり大変。センターの職員だけでなく、役所、町内会などの方が連携して皆で支えあっていくことが大事だと思う。
- ・相談支援センターで関わっている人の中で、この人は問題があるという人がいれば、地域の民生委員さんや、町内会長さんと呼んで、この人はこういう人なので、このような対応をしていきましょうね、というような会議をすることもある。

IV 暮らしを支える環境づくり

- ・医療バスが朝9時に出て、次の便が出るのが14時なので、朝出てきて用事を済ませたら昼の便まですることがないという状況なので、本数を一本でも増やしていただけたらありがたい。
- ・以前、老人クラブ（西町公民館）に行った際、玄関にスロープが付いているが中の入り口には段差があった。これでは意味がないのではないかな。
- ・会館をバリアフリー化しようとしても結局予算がなくてできないため、これに対して市から助成があれば助かる。
- ・公民館やスポーツセンターに行っても、高齢者にとっては使いづらいところがたくさんある。
- ・計画でバリアフリーをうたっているのであれば、施設のバリアフリー化の際などに市はもっと助成をするべきではないか。いくら自助といっても、大きなお金がかかるため限度がある。
- ・避難施設に指定されている施設があり、バリアフリーのために改築をしようとしたが、市からは上限以上の助成はできないと言われた。避難施設に指定しているのであれば助成をするべきではないのか。
- ・公共施設同士の複合化を考えていくべき。使い勝手がいいし、コスト的にも効率がいい。
- ・現存の施設を全て残すのではなく、必要な施設に建て直していくというのも大事。例えば、保育所についても、子どもが減ってきている現在においては、無理して残しておくのではなく、高齢者施設に建て替えるなど、現状に沿って対応することが大事。
- ・商店街は歯抜けになっており、歩道の除雪がされていないところもある。

V その他

- ・言いたいことは言わないと解決しないこともある。
- ・声なきニーズとどう向き合うか、知らせることが必要だと思う。
- ・声なきニーズ、言える人はどこでも言う事ができるが、言えない人はどんどん埋もれてしまう。それを誰が見つけていくのか。
- ・1期の計画時から、医療と福祉をどのように結びつけるかが課題。

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.6 温根湯温泉福祉センター】

- 日 時：平成27年7月16日(木) 午後6時30分～8時30分
 - 会 場：温根湯温泉福祉センター
 - 参加者：25名
 - ・市民 10名
 - ・委員 5名(照井・橋本・三浦・荒・戸田)
 - ・事務局 8名(大栄・高田・持田・川口・今村・松尾・松橋・近井)
 - ・社協 2名(近藤・横田)
 - 実施形態：座談会形式での意見交換(グループ司会 ①照井)
-

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・留辺蘂は何かあればみんなが手伝ってくれる。都会ではない。
- ・清掃・草刈り等行っても役員しか来ない。解決する方法は無いか。
- ・留辺蘂は知的障害者施設がある。入所者とのトラブルがある。お互いに知らないからトラブルになることから、地域の行事に参加をしていただき状態を知っていただくことが大事。今は大きなトラブルはない
- ・法律も変わり、障がい者についての理解はされてきたが、それについて全く住民に周知されていない。それがされないと進んでいかない。してもらおうという努力を行政にしてもらいたい。

II 地域福祉のネットワークづくり

- ・自治会の加入率について、北見はマンションがあるが加入率は低い。
- ・自治会は北見自治区では希薄である。地域のコミュニティを感じたくて自治区の懇談会に参加した。民生委員の話が聞ければと思っている。
- ・以前自治会長を行った時に世帯台帳を作成した。100%ではないが、中には依頼しても提出されない世帯がある。会費も払わない世帯もある。福祉部を立ち上げ、65歳以上・妊婦・若年単身世帯等の見守りを行っている。自治会は行政の橋渡ししか出来ない。
- ・私の自治会でも世帯名簿を作っている。依頼する時は、何の目的であるかを説明している。情報はきちんと住民に伝えている。
- ・老人クラブが14団体あり会員減少及びクラブの解散が続いている。今後、存続等についての対策で、何か参考になる話が聞きたい。指導してくれる対策は無いのか。趣味の会という場を設け、単位クラブでパークゴルフ、ペタンク、ゲートボール等活動を行っているが、会員が減るばかりで新しく入ってこない。
- ・趣味の会という場があるならば、周知をしっかりと行うべきではないか。その足掛かり

として専門家のアドバイスが欲しい。

- ・市の助成には制限が多すぎる。助成金が減れば、自治会員で負担するしかなく、自治会を解散せざるを得ない状況に陥る。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・私はGHを運営。今年施設を転居して地区が変わったことに大変苦慮している。ゴミの搬出方法等地区のやり方があり、最初自治会長との対応に苦慮した。
- ・制度やシステムを作るのは良いが、それをいかに周知出来るかが重要。

Ⅳ 暮らしを支える環境づくり

- ・意見なし。

Ⅴ その他

- ・こういう立派な計画を作っても実践しないと役に立たない。

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.7 仁頃住民センター】

- 日 時：平成 27 年 7 月 21 日(火) 午後 6 時 30 分～8 時 30 分
- 会 場：仁頃住民センター
- 参加者：22 名
 - ・市 民 10 名
 - ・委 員 6 名（照井・橋本・三浦・信田・山本・松金）
 - ・事務局 5 名（高田・横地・川口・今村・松尾）
 - ・社 協 1 名（牧野）
- 実施形態：座談会形式での意見交換（グループ司会 ①照井）

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・仁頃へ来て、10 年になるが、高齢になって、町内会の行事は総会のみとなっている。今の子どもたちは自分のことで手一杯で、親の面倒をみることは難しいので、健康づくり（自助）が大事だと思う。例えば、町内会で集まって、認知症防止の活動や健康づくりを行うなど。
- ・福祉の事は、老人介護のみではなく、少子化も問題であり、若いお母さんに対する支援が足りないように感じる。
若い女性は、子どもを産まなくなっている。子育て世代への支援として、インフルエンザワクチンの予防接種は、子供は 2 回接種しなければならず、その費用に対する助成を強化することが必要。子どもの医療費の助成等。子育て世代が生活しやすい「魅力的な町づくり」が最も必要である。

II 地域福祉のネットワークづくり

- ・自治会(町内会)が地域福祉を考えてもらいたい。自治会連合会には、更に関心を持ってもらいたい。
- ・地域には、民生委員がいるが、仕事が忙しい。民生委員と町内会の連携はどうなっているのか。民生委員は個人情報に対する守秘義務があり、支援の必要な人を困っているのではないかと連携を取りなさいと言えるのか。
- ・家族構成、年齢、勤め先、緊急連絡先は、町内会でも集められる。その時点で民生委員と連携することは可能ではないか。
- ・民生委員と町内会の密接な連携はとても大事。守秘義務とか、個人情報を盾にしないで、どうすれば、住民同士が助けあっていけるのかを考え、役員の皆が取り組んでみるのが重要である。一人一人、小さな単位の自治会から、こまごまと取り組んでいくことが必要。

- ・上常呂では、高齢者見守り隊を結成し、グループ何人かで一人の高齢者を見ている。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・行政サービスの公平というのは非常に難しい問題で、全ての人に公平というのはあり得ない。バスに乗れないからと言って、乗っている人を目の敵にするのはおかしい。お互いにどこで折り合いをつけるかというのが大事。
バスの問題もそうだが、一人戸建住宅に住むのは、非常に贅沢であり、地域で支え合うのは、なかなか難しい。

Ⅳ 暮らしを支える環境づくり

- ・仁頃地区は交通の便が悪い。川東のようなコミュニティバスがあれば良い。老人クラブに行くのにも、遠いがために活動に参加できないという人もいる。交通不便地の解消はどうしていくのか。
- ・懇談会には、初めて参加した。今、困っていることはないが困っている方にお手伝いや協力したい。冬期間は運転をするにも危険なので、コミュニティバスがあればよい。
- ・仁頃地区は、交通の便が悪く、老人クラブへ行きたくてもいけないので、自家用輸送・福祉タクシーなどについて、陸運と交渉したが、規制が厳しく、実現していない。ディサービスを利用したいという人がいるが、北見の事業所が峠を越えてくるのは、困難であり、仁頃にディサービス事業所の開設を進めているが、資金繰りなどの運営管理等までしっかりやらないと、難しい現状がある。市に相談をしても、どのくらいの費用がかかりますよ、などの指導が全くなくて困っている。
- ・無料バス乗車証をもらっても、バス停までいくのが、大変。端野はスクールバスを利用して、端野の街に行けている。小型のバスでこまめに回ってもらえば、暮らしは楽になるのでは。
- ・美里に住んでいる方は、移動はどうしているのか。「ともに支え合う、安全・安心のまちづくり」をスローガンに掲げているが、ソフト面の施策にわざわざ書かなければならないような現状が情けない。一昔前は、隣の家に行ってご飯を食べてということが当たり前だった。
出生率が低下し、地域に学校がなくなると、地域がなくなる。個人情報の問題で隣の人の情報を教えてもらえない。地域で支えようと思っても、どうにもならない。
- ・バスの問題は、ある程度の自己負担はやむを得ないのでは。ある程度自分のことは自分でやらなければならない。
- ・買い物難民対策では、常呂でもコープのトドックもあるが、品物を見て買いたいという希望もある。とある町内会は、80戸の内、20名くらいは単身高齢女性で、毎日、近所の方に遊びにいらって、見守りをしてもらっている。認知が進むと物がなくなった

とかで、近所の人近づかなくなり、3回目に倒れた時は、3日間気づかれなかった。

「見守りカード」「安心カード」を冷蔵庫にいれることも行っている。

この町内会独自で75歳以上の単身者、或いは80歳以上の夫婦を対象に、年間4回くらい見回りを介護サポーターで行っている。透析患者をバスで網走の病院に送っているが、社会福祉協議会で町の中を回ってもらえないか。

- ・廃校となった学校校舎の利用に関し、教育委員会から農務部へと、窓口が変わる。仁頃地区の活性化は難しい。

福祉に関することをしようとした際に、個人情報の問題が非常にネックになっている。

特に、福祉・介護分野における個人情報は罰則を設けてでも共有化するべき。

- ・道の駅の構想やそこに直売所を設置するなど、地域の活性化の観点で動きがある。

V その他

- ・意見なし。

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.8 高栄地区住民センター】

- 日 時：平成 27 年 7 月 22 日(水) 午後 6 時 30 分～8 時 30 分
- 会 場：高栄地区住民センター
- 参加者：40 名
 - ・市 民 27 名
 - ・委 員 6 名（照井・一條・白幡・三浦・河井・石井）
 - ・事務局 6 名（大栄・高田・大江・川口・今村・松尾）
 - ・社 協 1 名（牧野）
- 実施形態：座談会形式での意見交換（グループ司会 ①照井 ②三浦 ③一條）

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・老々ボランティアを打破するためには若い力が必要で、今考えているのは中学生との連携。中学生が高齢者の家の除雪をして、その見返りに中学校のグラウンドの除雪をしてもらう。
- ・誰がボランティアを必要としているのか、ニーズが把握できない。
- ・無料ボランティアでは人が集まらないので、有償ボランティアを考えている。
- ・このような会議に参加させていただくと、いつも高齢者の話題がほとんどだが、障がい者についても社会的弱者であり、少しでも目を向けていただけると非常にありがたい。
- ・運動をおこなうサークル活動をしているが、参加するまでのハードルが高いのかと思うがいざ参加すると皆楽しいと積極的に活動している。こういった活動が市全体に広がるようになればいい。
- ・そもそも他人との関わりをあまり持ちたくないと思っている人には何を言ってもダメと感じる時がある。
- ・認知、介護といった言葉を出すと、話を聞いてもらえない。本人たちには自覚が無いため、どう福祉を考えれば良いのか分からない。
- ・日頃の付き合いの中で、信頼関係を築いていくしかない。障がい者、要介護者についての研修会等を開くのはどうか。
- ・あいさつの徹底、認知症サポーターの育成、気軽に集まって話せるような場作りを行っている町内会もある。1度で解決できるような問題ではないので、回数を重ねる中で解決の糸口を見つけていくべき。
- ・認知症、アルコール依存症等を恥ずかしいと思っている人が多い。1人では解決できないものなので、恥ずかしいものではないと分かってもらえるような取り組みを。

Ⅱ 地域福祉のネットワークづくり

- ・地域での助け合いができていないかと聞かれてもどうということかわからない。
- ・住民協働組織と連合町内会は役割が重複しているのではないか。たくさんの組織を作っても中身が薄くなるだけではないのか。
- ・地域の中で、一人暮らしの高齢女性が増えてきているが、連絡網はみなさんどのようにしているのか。どのようにネットワークを作っているのか。
- ・市から民生委員に独居高齢者の情報を渡し、訪問してもらっている。個人情報問題もあるので、きちんと許可をもらった人に対しては包括で見守り、声掛けを行い、実態把握をした上で介護のサービスを受けた方がいいと思われる方がいいれば、こういったサービスを受けることができるという説明を行っている。
- ・民生委員とのやり取りがなかなかうまくできない。
- ・たとえ除雪機を貸してもらったとしても、高齢化でそれを使う人がいないのが現状。町内会で力を合わせてやると言っても、どこにだれが住んでいるかもわからないので、中々難しい。
- ・町内会で何かをやると言っても、お金が足りないというのが現状。
- ・町内会費は月500円が一般的で、年間6千円。これだけで運営していくというのは中々難しい。
- ・住民協働組織は地域福祉の担い手ではない。ニーズがわからない。例えば独居高齢者が何人いるかというのも全然わからず情報が入っていない。なので、市でそのようなニーズを集めてくれると動きやすい。何を求めているのかというような情報の集約が重要で、それが地域福祉の一步ではないのか。
- ・何をやるにしても、まず始めは町内会なので、やはり町内会への支援を第一にしてほしい。町内会がしっかりしていれば何の問題もない。
- ・町内会がしっかりしろというが、個人情報問題もあって名簿などの整理も難しいのが実情。個人情報の一人歩き。
- ・独居老人と付き合うのは中々大変。人と話したり、人にしんせつにされることに飢えているのではないと思う。独居老人の身になって、周りが話しかけたりすることが大事。
- ・町内会の組織されていない公営住宅がある。市の都市建設部総務課に入居者募集時に、あわせて町内会の組織について周知すればいいのではないかと行ったが、うちの仕事ではないと断られた。
- ・独居老人が、人と話をしたいというのは本当だと思う。訪問することがあるが、何時間も話をしたり、話をするだけで元気になったという事もあった。そういう機会を増やすためにもサロンなどの取組がもっと広まればいいと思う。
- ・老人クラブに入る人が少ない。
- ・老人クラブには、上下関係があるから入りにくいという意識があると思う。その点、サロンは皆平等という意識がある。サロンの開設をもっとやりやすくしてほしい。やはり場所の確保が困難。

- 今、高栄小学校の空き教室をサロン事業で使わせてほしいと要望しているが、全く聞いてもらえない。空き教室を使えば子どもと高齢者との触れ合いになるのではないか。
- ・ 町内会活動でプライバシーに対する配慮。個人情報の取扱について、各個人が敏感になっており、各家庭の実態がつかめない。
 - ・ 町内会の名簿作成もままならない状況。
 - ・ 個人の情報を市から提供してもらうような方策はとれないのか？
 - ・ 防災訓練の実施を町内会で計画しており、その名目で名簿を作成することを考えている。
 - ・ 民生委員活動をおこなっていても、疑われ協力が得られないことがある。周知やPRを強化できないか？
 - ・ 町内会も介護事業者が出入りしているのを遠目、傍目で見て困っていきそうな家庭がわかるが、それ以上深入りもできずどこに相談したらいいのかもわからない。
 - ・ 単身生活の高齢者がおり気にかけているが、本人が病気のことや家族のこと介護のことを話題にすると何も話さず 時折救急車などで搬送されているのも見ているが、孤独死などが話題になっている昨今、町内会も詳しい情報が得られず心配している。
 - ・ 福祉制度の利用に抵抗がある人、恥ずかしいので他人に知られたくないと考えている人が多くいると感じる。
 - ・ 町内会で問題となっているのが、プライバシーや個人情報があるため、どこまで踏み込んで良いのか分からない。
 - ・ 地域の情報を得たいと思っても、口を噤んでしまう人が多い。
 - ・ 自主的なサークル等では、楽しみだから活動しているという声も多いが、町内会では、そのような声がないため、楽しみになるような仕組みづくりが大切だと思う。
 - ・ 町内会活動等に現在参加している人は、前向きなため、どんな場にも積極的に参加する。問題は、参加しない人に対して何を言っても呼び出すことが出来ないこと。
 - ・ 流通が良くなるに従って、関係が疎遠になっていく。信頼を得るのにも時間がかかる。
 - ・ デイサービスは、初め抵抗を持っている人でも、一度行けば気が変わることも多い。
 - ・ 訪問介護を受けている人は、来てもらえるのだから、こちらから行く必要はないと考えている人も多い。
 - ・ デイサービスは、要介護というレッテルを貼ってしまうようで可哀相なので行かせたくないと言っているご家族の方もいる。対策を練るべきではないかと思う。
 - ・ 引きこもり問題の相談が多い。デイサービスに行ったらそのまま施設に入れられてしまうと勘違いしている方もおり、元々面識の無かった相手の対応はとても難しい。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・ 相談を受けても、そのことを他の誰かに伝えていいものか判断できず、結局相談にのり切れない。
- ・ 市は福祉制度の積極的な発信や、単なる制度説明ではなく町内会や市民が関わった具体

的な事例や取組を情報として発信するのがいいのでは。

- ・介護などのサービスを利用しているのであればまだ安心できるが、そういった情報は得られないため結局不安で心配な状況が続く
- ・地域を巡回しますといった民生委員の活動について伝書鳩に載せてもらってはいるが、周知が足りていないのか、地区の担当となって間もない民生委員の方が苦勞している。周知の工夫が必要なのではないか。
- ・情報発信やPRをもっと工夫すべきではないか。懇談会にあまり人が集まっていない。

IV 暮らしを支える環境づくり

- ・無料バスの乗車証はなくなるのか？ 高齢者の外出を支援するといった視点で考えると非常に有効な手段である。特に緊急・必要ではない外出も、バスを無料で利用できるので出かけている人も多い、外出となれば服装、身だしなみも気を付けるであろうし、食材の購入もする。
なくなれば、ひきこもった生活になる人が多くなると思う。
- ・バス乗車証を廃止してしまったら、地域とのふれあいや出かける機会をなくしてしまう。大きなマイナスになるのではないか。

V その他

- ・今回もそうだが、こういった場の広報、周知が不足していると感じる。会場も住んでいる場所から離れているので参加者が少ないのでは？町内の人に声をかけたが、なかなか集められない。

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.9 南地区住民センター】

- 日 時：平成27年7月24日(金) 午後6時30分～8時30分
- 会 場：南地区住民センター
- 参加者：21名
 - ・市民 11名
 - ・委員 2名(照井・櫻井)
 - ・事務局 6名(高田・長尾・池田・川口・松尾)
 - ・社協 2名(坂本・室田)
- 実施形態：座談会形式での意見交換(グループ司会 ①照井 ②櫻井)

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・この地域に来て5年くらいだが、地域の状況がよくわかっていない。
- ・担い手ということで、皆さんには同じことを言っていると思われるかもしれない。
私は引退して14、5年になる。
北見に来た時、子どもが小さい頃家を建て、町内会をやらされた。
15年くらいずっと町内会、民生委員などいろいろと手伝っていて、どこに顔を出してもほとんど同じ顔。話に出てくるのは、担い手がないということ。40代、50代と考え方が違う。こういう方達に取り組んでもらえる者を作らなければ、市民が参加しなければ。
市民が興味もなければ参加する気持もない。活動家を育てていかなければ。
- ・草取り、除雪をやっているが、やっている方が70代。もうやれない年代になっている。
やってる人ができなくなっている。どういう組織でもいいが、なり手がないのが一番の問題。
- ・若い人が率先してやる人はいない。
- ・川東ではひと地域60代以上がほとんど。若い人はたまに家を建てるくらい。あと10年か20年したらすむ人がいなくなるのではないか。
- ・私はシルバーをやっている。若い人は難しい。奉仕活動をしているが、会(シルバー)に入ればできる。
- ・地域で草刈りをして若い人は一人もいない。60代以降。
- ・前回もいかに若い人を入れるように。変わって来ているのは、学校が一生懸命ボランティア実践校などをやっているの、子どもたちの意識は変わってきているかもしれない。ボランティアは女性が約9割、男性は1割ほどで60代が中心。40代、50代はほとんどいない。
- ・いろいろやらせてもらっているが、担い手が一番の問題。
30代、40代に今の色々なことをお願いするにしても、自分たちの生活のことで目一

杯で、できない環境にあるのでは。

そんな状況でも活動家になれるような施策にしないと、新しい地域も30年もすればみんな70代になる。

- ・人材もないし子どももない。
- ・基盤も大事だが、高齢者が多いので難しい。
- ・長く役員を引き受けるようになってから、地域に興味を持つようになった。民生委員を受けて地域を回るようになって福祉のことがわかってきた。サラリーマン時代はそんなことを考える余裕もなかった。
- ・基本的に仕事柄こういう場に出てくるが、福祉の仕事をしていなければ出てこないのでは。
- ・景気が良くならないままこの年代に、職がない時代に育ったので自分を守る方に走ってしまう。
- ・仕事と関係がなければ福祉に興味をもたないのでは。
- ・年を取っていくとどの段階を踏んでいくのか、若い人は年寄りが身近にいない環境の人は、「お年寄りってなんだろう？」とか先の姿を想像することをしなければならないが、その機会がないのでは。
- ・若い方への切り口がない。
- ・40代の女性に高齢者の話をして、「聞いてよかった」とは言われたが、集まる機会を作るのが難しいのでは。
- ・福祉系の大学だったので、ボランティアの機会はあった。
- ・自分たちが仕事を終わったときは、自分たちが頑張らなければ。
- ・大震災の時岩手に行った。全国から若い世代が自主的意思でボランティアに参加していた。国民全体が共通認識を持っているから集まってくれたのではないか。
- ・社協として色々事業に携わっているが、若い世代では時間の余裕がある若い世代が学校単位で参加してもらえる。
- ・現役世代は今のご時世では断られてしまう。
- ・担い手も高齢化、一番に担い手であれば退職直後の方をいかにつかまえるか、団塊の世代の方、若い人たちよりも退職後の人が多い時代になるので、上手く取り込んでいくのが大事かと。そうしないと回っていかない。
- ・平成30年すぎたら女性が多くなり、北見市の人口も9.8万人にさがる。人が少なくなるから大変だ。
- ・今から私たちも頑張らなければという気持ちを持っていただけるような何かを入れていただきたい。
- ・ボランティアをやっている人たちを社会通念の中で評価される社会を作ることが必要では。社会の中でボランティアの担い手は大切なものだ。
- ・今の人は上手くやらないと難しい。
- ・集まってくる人は問題ない。集まってこない人をどうするか。集まってこない人をどうするかが問題。

- ・具体的な行動指針を作って繰り返し繰り返しやっていくしかない。手伝う人がいないと続かない。
- ・担い手不足、交通空白問題、交通弱者、個人情報保護法、過剰反応によりどこに誰が住んでいるのかわからない。自治区などは問題のないところもある。
- ・住んでいるところの活動は自分たちが責任を持ってやるという気持でできるだけ負担をかけないようにやる。
- ・地方に人材がない。国も「地域おこし隊」というものを作り。定住／移住促進ということで走り出している。ただ、そう簡単にはいかない。滝上町でも2人がきて先行してやっている。
- ・札幌など大学生が町内会をバックアップする活動をしている
- ・助けあいが求められてないのでは。

Ⅱ 地域福祉のネットワークづくり

- ・計画を一つにして「助けてください」と言ってもらった方が受ける方はやりやすい。
- ・民生委員もどんどん詰め込まれている。
- ・民生委員をやってくれる人がいない。どこもそんな状況。苫小牧市は絶対欠員を作らないと公約にした市長が当選。市長が全町内会を回って欠員はゼロ。
- ・活動の基盤はどう考えても町内会。町内会が元気だと町も元気。
- ・町内会活動の活動家と、未加入の会員をゼロにするなど、チラシを作ったりお願いしたりなどしてきた。町内会がしっかりしないとだめ。未加入者にも広報を配布しているが結びつかない。
- ・自分も57歳。本町に住んでいるときに町内会長をやったりもした。この地域に来たのは家族介護の都合で引っ越してきた。
- ・会長は70代、救急車で運ばれたり、90代、100歳の方もいる。
- ・相談を受け感じていることは、地域で物知りな人はたくさんいる。
- ・私も町内会には入っている。会長は、なって初めてわかることがたくさんあり、勉強になった。
熱心な方がもり立て、参加できない方にはお土産を届けたりといい町内会であった。
話すのが苦手な方もいるが、上手くいっているのではないかと。熱意のある方がいなくなったらどうなるのか不安。
- ・個人的に町内会に加入している。
自分と同じ位の若い世代は町内会の草取りには全く出てこない。若い世代の多い町内会だが、参加してこない。公営住宅の入居条件に町内会加入があるのに脱会される。
- ・何を考えているのかわからないような方もいる。
- ・町内会に参加しないのは、自分たちの問題としてとらえられていないのでは。
- ・市民協働組織はいい方向に来ている。そんなことをごちゃごちゃ言っているのではない。
自分たちが安心安全に暮らせるような、それが協働組織。理解する市民を一人でも多く

することが行政の仕事。

- ・人が集まるのは花見、飲食を伴う時。会費を取らないときは人が集まる。そういうもので釣らないと人は集まらない。
- ・3自治区は名簿がなくてもわかる。市街地の方が大変
- ・北見は市から町内会に補助金がない。
他では補助あるところもあるが、制約もあるため、やることをきちんとやらなければならない。
- ・市の職員が各町内会長に張り付くなど、活動を支援してくれる支援員がいる中で活性化につながる。
- ・町内会の在り方を考えていかないと。
- ・町内会の上に連合町内会、そのうえには議員もいるのに何も変わっていない。
- ・行政サイド、建築申請など、オーナーに対して入居者には町内会加入を義務付けるなどは厳しいか。
- ・管理者が町内会費含めて集めているところもある。そういうものが浸透すればやってくれる。お金を払ってもらうことで参加意識が出てくる。
- ・個人情報保護法によって活動がかなり制約されている。限定で保護しているだけ。看板にも名前を載せないでほしいなどいわれる。
- ・個人情報を出さないと孤立してしまう。
- ・1年間町内会をやってきて、葬儀が町内会で担う事が減ってきた。そうになると町内会でのつながりが薄くなってしまう。
- ・業者に葬儀を頼むことが多くなった。個人情報のせいで情報が見えなくなった。住民の組織が壊れてきた。
- ・町内会で花見を行うと人は集まる。
- ・高齢者で施設に入って町内会を脱会、亡くなって子が葬儀をやってほしいと依頼してきたことがあった。
- ・若い人が町内会活動に参加しない。
- ・税金を払っているから、市でサービスを行う事は当然だが、救急車が来ても見に来る人が減った気がする。助け合いがいなくなったのか。
- ・草刈もやる人がいなくなってきており、大変で切実である。
- ・福祉教育として、地域で子供に声掛けを行っているが、不審者扱いされかねない。
- ・町内会がない地域に進んで移住する人も増えてきた。
- ・町内会であいさつすることを徹底しているが、中々広がらない。
- ・認知症の方はわかりにくい。
- ・広報は、ごみの記事くらいしか見ない。
- ・広報は合併前の方が読んでいた。
- ・広報はもっと簡素にした方が読むと思う。
- ・訪問する上で、隣の人が介してくれたり、町内会の存在が助かる。職員一人に千人くらいのと老人がつく。町内会の協力があればうまくいくのではないか。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・ 有料で、個人で託児を行っているところもあると聞いた。
- ・ 無料というのは頼みづらいという思いもあり、有償の方が頼みやすい。
- ・ 生活が大変な世の中なので、無料でやる人はいないのでは。
- ・ 介護保険料が上がったが、無駄を減らすと上がらなくなるのでは。
- ・ 小中学生は、医療費を免除してほしい。

Ⅳ 暮らしを支える環境づくり

- ・ 十勝は流入人口が多い。オホーツクは出て行くだけだ。札幌も多い。
- ・ 人口も間違いなく減る。若い人の方が晩年には厳しい生活に追いやられる。
年金生活者の方が収入が多いのも問題。300万円以上ももらって、バス代タダ、それでも文句を言っているのがおかしい。福祉の必要性を感じていないのにやってもらうのは無理。
- ・ 無駄が多い所は見た目はいいが、外れると悪い。要望しても改善されない。年中道路を直しているが、少しはこちらに予算を回してくれれば。

Ⅴ その他

- ・ 計画を各組織で盛りだくさんに作っているが、受けるサイドの住民は変わらない。
情報過多の状態。どこに何を取り組んだらよいのか。こういう物を作ったとしても推進する人が育たなければ、何をやっても意味がない。
危惧しているのは、町内会役員でもなり手がいないのに、計画を立てて出てくるのは一握りの人が同じことをやっている。担い手の問題を解決しなければ。若い人と私たちの世代の考え方は全く違う。価値観が全く違う。助け合いの精神は身に付いているが、若い人はお金があれば何とかなると考えている。
- ・ 市民の声に出した方がいい。市長に言わなければ、議会に顔を出すといい。
- ・ 年代ごとにこういうことをやっていただきたいということを具体的に計画に取り入れ、広報やいろいろなところで取り上げてほしい。
- ・ 特効薬はないが、地道に文言の羅列ではなくしていかないと効果がないのでは。食いつかなければ効果がない。
- ・ 権利意識を持たれてもいいのでは。権利と義務は一体だから。権利があれば知ることができる。
- ・ 何かのときに「行政が取り組んでくれない」と責めることが問題。
- ・ 懇談会などに参加する市民を以下に多くするよう行政も努力を。
- ・ 専門用語が多くてわかりづらい。
- ・ 下水道関連の建設は無駄が多いと思う。

- ・公園担当に、雪で壊れたフェンスを直してほしいといったが、直す場所が多くて先延ばし、回答がない。
- ・福祉の分野は、どんどん広がっているのもっと予算をつけて幅広く取り組んでほしい。

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.10 北光地区住民センター】

- 日 時：平成27年7月27日(月) 午後6時30分～8時30分
- 会 場：北光地区住民センター
- 参加者：37名
 - ・市民 26名
 - ・委員 6名(照井・三浦・河井・荒・島田・前橋)
 - ・事務局 4名(高田・森谷・今村・松尾)
 - ・社協 1名(和泉)
- 実施形態：座談会形式での意見交換(グループ司会 ①照井 ②三浦)

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・町内会活動がほとんどなく、今回の懇談会にも町内会長が参加されていないのが気になる。町内会長をやる方がいない。
- ・町内会長を17年もやっている。
- ・近年は雪の量も多くなってきているため、除雪のことがすごく心配であり、ボランティアの人も少ないと思う。ボランティアの人がどのくらいいるのか実態がわからない。
- ・私は町内会の中でも若い方で、かなり年齢差があるため、話しかけづらいたとか、入っていきにくいと感じることもある。
- ・町内会は万能ではない。役員をやりたがらない人も多く、人手が足りないのではないか。
- ・若い人を取り組んだ町内会活動に力を入れている。若い人を育て、途切れないように町内会を組織していかなければならない。若くとも町内会活動に積極的な方は居る。

II 地域福祉のネットワークづくり

- ・地域でも高齢化が進んでいる。認知症予防体操に参加し、参加者からもとても好評だった。このような介護予防に向けての講習等(情報提供含め)を是非またやってほしい。地域の高齢者も集まりやすく、地域のつながりが深まると思う。市の方でも、介護予防、病気予防に力を入れた計画にしてほしい。
- ・事業所でも地域の集まる場所づくりを行っている。引きこもり防止のために、「食」を中心に輪を広げていくようなことを3年前くらいから行っている。
- ・地域サロンを立ち上げて出前講座を行っているが、サロンを運営するにあたり、報告書を提出しなければならないのが少し面倒。
- ・地域でも高齢化が進み、障がい者もあり、除雪についてもとても大変である。町内会としても支援活動をどのようにしていけるか不透明なところがある。高齢者の一人暮らしの方を支えてやらないと思っはいるが、なかなか行動に出せないなので、どう支援して

いけばよいか…。

- ・住民協働組織はシステムがとにかく面倒で、代表を出して、計画を立てて、報告書作りなどをやってとなると、1年間それにつきっきりになってしまい、町内会の仕事と並行して行うのはかなり困難。本当に市民のことを考えるならば、世帯数に応じて補助金を出します、でいいのではないか。住民に対して不親切で、とても市民のために考えた交付金とは思えない。
- ・地域福祉を理解できるが、行政が責任を持って行っていただき、町内会も機能しているところはよいが、できていないところもある。行政がいかに取り組んでいただかなければならないかと…。また、市はどこまでの要支援者を把握しているのか。
- ・民生委員の方で要支援者台帳作成のため、高齢者宅を回り情報を得ている。
- ・地域に住んでいる方の要望を聞かないと何をすべきかわからない。地域包括支援センターには大変助かっている。
- ・災害時に備え要援護台帳を作成のため訪問するが、個人情報のこともあり協力的でない方もいる。
65歳以上の方を訪問しても、支援は必要ないという方がほとんど。今の65歳は働いている人も多く、昔の65歳よりも若い。
- ・福祉のテーマに「地域」と付いているので、「地域」とは町内会のことと思うが、今は隣に住んでいる方がいるのかいないのかさえわからない。
- ・10戸程の町内会だったが、高齢化が原因で解散となったところが2カ所ある。
- ・町内会未加入の方についてはゴミステーションの問題や街路灯の問題がある。
- ・町内会の再構築が必要かと思われる。(地域によって格差がありすぎる)
- ・いい計画を立てたとしても、上辺だけで終わってしまうのではないか。町内会が実際に計画にどれくらい入っていけるかというのがちょっと疑問。
- ・地域の絆がとても希薄になっている。情報というのは、住民の方はとても気になっている。
- ・福祉の仕事をしていると色々な相談をされることもあるが、どれをどこに相談したら良いかというのがわからない。結局、民生委員さんに連絡をするが、その民生委員さんについても誰がどこの地区を担当しているかというのわからない。解決能力のない家族はどうするのだろうというのは普段から不安に感じている。
- ・民生委員が訪問し、何か困りごとはないかと聞くが、今現在なければ「ない」と言うので、訪問した際にはパンフレットなど渡して周知をしている。
- ・民生委員の役割や担当などを年1回は回報をしている。
- ・私のところには、誰が民生委員をやっているかについて回覧で回ってきたことはない。民生委員によって周知の方法に差があるのではないか。
- ・若い人と話をする機会がすごく減ってきていると思う。
- ・担当地区に一人暮らしの方が居ますが、暑い日が続いていたりすると、ケアマネとしても毎日確認することは出来ない。地域での情報交換の場があればいいと思う。
- ・一人暮らしの女性の方が地域に居て、向かいに住んでいる人から姿が見えないという連

絡があった。実際に行ってみたが、玄関フードにカギがかかっている中に入れずガラスを割って中に入った。住民の方からの連絡が無ければさらに発見が遅くなったと考えると地域のネットワークは非常に重要だと思う。

- ・民生委員として活動していますが、個人情報に対しての認識の違いがあるのは問題だと思う。関係機関を含め、認識を統一する研修会のようなものがあればと思う。
- ・精神障害と認知を抱えた奥さんがいるため、病気が入院できないと言っている方が居た。緊急入院をされたが、包括からその情報が伝えられなかった。後日その話を聞き、確認を取ったところ、個人情報であるため、民生委員の方にはお伝えしなかったと返答された。本人に不利益はなく、問題解決のために使う情報であれば、保護法に触れるものではないと思う。認識を共通のものにすべき。
- ・いきいきサロンで手伝いをしているが、町内会での距離が遠いと感じる。サポートしてくれるような若い人が来ず、高齢化が進んでしまっている。
- ・独居の方がどんどん増えている。台帳登録のため、お伺いするものの、拒否される方が居る。孤独死等の恐れもあり、民生委員の負担は大きい。デイサービス等色々なところと連携すべき。
- ・高齢者をただ高齢者と一括りにせず、実際に様々な状況にある人たちを考慮に入れた上で策定してもらえればと思う。
- ・在宅訪問を行っているが、民生委員や町内会長と連携を取っている。情報共有をしっかりと出来ている地域もある。
- ・現場での個人情報の取扱いが難しい。状況によって変わってくる。
- ・地域で相互に気にかけてもらえるようなネットワーク作り。声をかけられるような地域にするには、どうすべきか。具体的な解決策があれば。
- ・町内会で手伝い等を行ってもらった人に謝礼を行うことで、町内会の中で事業所のような取り組みが出来れば一番だと思う。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・地域包括支援センターでも市より委託を受けて介護予防体操（元気アップ講座）を行っている。
- ・地域包括支援センター独自でも個人から団体まで幅広く、ご要望に沿った内容で出前講座を行っている。
- ・地域包括支援センターがどのようなことを行っているところがよくわからないこともあり、市民への認知度はどうなっているのかと…。
- ・市の方が除雪に来てくれた後に除雪車が来て雪を玄関前に置いていく。
- ・高齢者はお金を払ってでも除雪をしてくれたらと思っているので、町内会でもなんとかしたいと思っている。
- ・除雪機の貸し出しを社協で行っているが、町内会に1台となっている。
- ・まちづくり補助金は除雪機の燃料代は助成の対象にならない。

- ・介護保険制度で問題になっているのは、介護をする人が確保できないということ。将来は、制度はあっても行う人がいないということになるのではないかとされている。
- ・介護保険が年金より引かれているが、保険料も高いとなっている。北見市でそれだけサービスを利用している人が多いのが原因と言われている。
この実状について統計を出して、市民に周知をした方がいいのではないかと。周知することで市民も実感を持つことができる。
- ・介護予防に向けて調査をして市民に情報を提供していただきたい。いかにして介護予防を行っていくかが重要だと思う。
- ・病院にかからなければならないような人も、経済的な理由や忙しいという理由で我慢して行かない人もいる。そういう人を地域で支援していければよいが。
- ・市のサービスは、対象者が膨大なため、聞いてくれたら教えてあげますよ（聞かなければ教えてくれない）という側面がある。そのような市では拾いきれないニーズを拾ってくれているのが民生委員さんだと思うので、もっと民生委員さんの活動をアピールしていった方がよいと思う。
- ・民生委員さんが行政サービスの内容を話してくれたりするので、そのように情報の提供が必要だと思う
- ・困った時の相談先がもう少し見えやすいといい。
- ・何か困りごとがあれば社協にというようなことがあると思う。
- ・民生委員の活動報告は市に行っていると思うが、その結果を市民に周知した方が、こんな活動をやっていますよ、というアピールになるのではないかと。
- ・緊急の通報装置はついているが、いざというときに押せないという問題もある。
- ・生活保護の方が居ますが、使い方のバランスが悪く、早い段階で無くしてしまう。使い方の指導等があればよいのではないかと。
- ・除雪を地域の方に手伝ってもらっているが、手伝って除雪を済ませてしまうと、今後シルバーの方が来なくなってしまうため、手伝いをやめたというケースがあった。
- ・今シルバーを利用している方からすると、町内の人たちに手伝ってもらおうほうが逆に負担に感じる。シルバーの人が来てくれたほうが申し訳ないといった思いがなくて負担が少ないという意見もある。

IV 暮らしを支える環境づくり

- ・母は認知症があり介護保険施設に入所しているが、以前、上ところの金毘羅山に行って、桜の枝をいただいた。それを施設のロビーにいっぱい飾ると、母もそれを見てきれいだと喜んでいたのでとてもよいことだと思う。
施設に入っている人などは、景色などに非常に反応をしてくれるので、引き込みりを防止するためにも、花を植えるなど、景観の整備を進めていった方がいい。

V その他

- ・以前、近所に救急車が来て30分くらい停まっていたが、行き先がわからなかったのか、受入れ先が決まらなかったのか、すぐに行けないのはどうしてかと…。

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.11 中央地区住民センター】

- 日 時：平成27年7月29日(水) 午後6時30分～8時30分
- 会 場：中央地区住民センター
- 参加者：37名
 - ・市民 24名
 - ・委員 7名(照井・橋本・一條・荒・大友・金野・信田)
 - ・事務局 7名(大栄・高田・池田・今野・川口・今村・松尾)
 - ・社協 2名(牧野・上瀧)
- 実施形態：座談会形式での意見交換(グループ司会 ①照井 ②三浦)

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・普段感じているのは、単位町内会では役員のなり手がなく、輪番制でやっているところがほとんど。長くても2年で、役員がすぐ変わってしまうので、福祉に関する活動をあまりできていないのが現状。最低限のところしかやっていないところが多い。伝書鳩でも取り上げられていた「協働組織」をうまく活用していくべき。
- ・自分には全介助の24歳の娘がいる。当事者として毎日向き合っている。障がいを持つ親として、愛される親子を目指そう、地域で障害を理解頂いてみんなで働いている。
- ・母も私たちもどんどん元気になるわけではないので、子どものこと、母のことなど心配なことは増えていく。
- ・懇談会の内容でいえば、町内会のなり手は減少している。町内会の運営では、若い人は仕事をしているため、担い手は引退した人。
- ・長い間役員をやっている人が高齢化してきている。次の担い手がいないため困っている。
- ・子どもが遠くに行っていて高齢夫婦のみ。
中には、介護保険サービスの対象であるにも関わらず、なり手不足のため役員をやっているという方もいる。
以前はみんなでかばってくれていたのが、現在はなかなか理解されず「みんなであの人を支えていこう」というような雰囲気から、行政に対して「あの人をどうにかしてほしい」というような姿勢になってきている。
- ・若い方たちに意識を持ってほしいと思っても、「仕事」「興味がない」「加入しない」と孤立しているのでは。
- ・今日の顔ぶれを見ても、若い人は見えず、これから誰が地域福祉の担い手になっていくのかという不安がある。意識のない方をどうやって意識づけていくのかというのが難しい。

- ・年寄りもお金を持っているから、お年寄りも「大事にされているのだなあ」と感じてくれる。
- ・心のネットワークを作るようにしている。時間はかかった。
- ・端野にも仁頃に近いものがある。2区、3区は北見に近い。隣近所が見えない地域。町内会長、連合町内会長を連続でやるところはない。輪番制。能力のある方が長くやっていたらいい。
- ・高齢化社会を見据えていかないと。端野ももう少しでどうなるか考えていかなければならない。
- ・ボランティアも難しい。そこに1人かかりきりの職員がいないと難しい。軌道に乗ればつなげていきたい
- ・ボランティアについては、最近は無報酬から変わってきている。無償・有償にこだわらず等価で有償でもいいのではないかな。
- ・自分の娘も障害があるため、同世代の人と交流する機会がない。学生たちも障害を持つ方と触れ合う機会を持ち勉強になる。お互いに吸収するものがあり毎月何回も重ねていく中で学生たちには学び、子どもは楽しいと感じてくれる。社協の力を借りないとできなかったが。
- ・子どもが少なくなってきて、高齢者の時代。子どもがなかなか見られない。
- ・有償ボランティアと兼ね合わせながらやっていかないとうまくいかないのでは。
- ・子ども会活動が疎遠になっている。関わりたくない。親が楽しめないから参加する人が減っていく。
- ・認知症が恥ずかしいものであるという認識を変えていかなければならないと思う。隠してしまうと解決できないため、そのあたりの意識を変えていくべきだと思う。

Ⅱ 地域福祉のネットワークづくり

- ・町内会に福祉部があるが実際は活動していない。
- ・町内で行事をやるときに町内会に入っていない人は参加できないのはだんだんわかってくるのかなと思う。今まで野放しだったので急には難しいのでは。
- ・会社の方も地域で愛されるNPOを目指そうとみんなで工夫をして取り組んでいる。見てふれあって何かを感じてくれたら。
- ・就労支援として、銭湯を運営しているが、利用者もいろいろな場面で活躍してくれており、仕事にやりがいや生きがいを感じてくれている。不必要な人なんていない。何らかの形で役に立つというのがわかった。
- ・災害が起きた時、どこの避難所に行けばいいか、どのように避難をすればいいのか、という不安があるので、そのあたりも計画で示していただければと思う。障がいを持つ子を背負って逃げるといふわけにはいかない。
- ・市民協働のことは、小学校の面積でお金が違って来る、これはおかしい。
- ・老人クラブもない、やることも少ない天国みたいな町内会。

- ・地域で会議を開いてもなかなか集まれないところが多い。
- ・町内会でも元気な人がいる。1回やってもらって500円の弁当でもいいじゃないか。今までやってきたことを改善しようとしな。改善していくことが大事。余計なことはしない。
- ・身近なとなりの人からきちんとしていく。そこからやっていけばそんなに難しいことではない。
- ・自分の町内では、夏休み前に自分で作った町内会のマップを（学区長、児童数などを入れ）渡している。毎月役員会を開き、情報交換している。そうしないと見えてこない。地域とPTAのつながりがなくなってしまう。
- ・地域で必要なら、お金を出し合ってやればいい。
- ・色々話し合わないとわからない。だから毎月役員会も開いている。なにも知らない町内会長もいる。協力してもらえる仲間づくりをしていかないと。
- ・「一人の不幸も見逃さない～福祉のまちづくり」はカッコ良すぎる。誰が作ったのか。自分の町内会ですらも見逃している。
- ・小さい所を町内会に知らせることが大事。
- ・回覧は実に大事。小さなこと、うれしいこと、悲しいこと、喜ばしいことあれば町内にお知らせをするべき。
- ・自分の町内では80名くらいにお祝いを渡している。
- ・町内会長をやって9年目になる。町内会は自分たちの地域だと意識していないことに問題。
町内会で大事なのは、自分のところは自分で治めるんだ、という自治の気持ちを町内会で共有すること。役所がやるのではなく、自分たちが自分たちで治める。
- ・常日頃集まり、みんなでやっているという意識を持つ。子どもも家族も町内会の一員。「みんなでやっているんだ」ということを常に言い合っている。
- ・地域福祉に非常に関心がある。皆さんも関心を持ってもらい。行政と住民が一体となってやっていかないと。
- ・町内会、自治連が機能を発揮していないのでは。
- ・町内が活発化できないのはどこに誰が住んでいるのがわからないからでは。住んでいるところから把握することから始めなければならない。
- ・地域の幸せ、全体の幸せにつながることに気づいてもらいたい。それが地域福祉ではないか。人々が人間らしい生活をすると言いながらやっていない。
- ・感謝・笑顔・優しい声をかける、挨拶もしないところがある。
- ・町内会では行事の時に集まる。その機会を使いながらこういった話をしていきたい。
- ・町内会のつながりでは、お祭りのときの後片付け、除雪を積極的に参加させてもらっている。
- ・カフェも地域にもっと周知して利用してもらえるようにしたい。
- ・最近家族葬が増えてきていると思う。
町内会長が引き受けてくれないから、高いお金を払ってやっている。市の葬儀部を作っ

てもらえれば半分で済む。復活してくれれば助かります。

- ・福祉に関してやりづらいと思うのは、個人情報の問題。現在は何も情報が入ってこない
ので、どこまでの情報であれば教えてもいいですよ、という線引きをしてくれればわかりやすい。
- ・国も変わろうとしている。
年齢、住所、電話番号など最低限であれば町内会長が町内会の合議をとって集めて使う
のであればそれは問題ない。断る人は仕方がない。
ただ、個人情報を封鎖すると地域から隔離されてしまうのではないか。
- ・話を聞いていて、町内会に対する不満が多く出たが、自分の町内は全然心配ない。班ご
とに連絡し合って花見や行事をやっている。ピンポンしても出てこないことはない
うまくいっているのではないか。
- ・隣の町内には塚本道議もいる。町内で困ったことはない。
- ・町内は50戸、加入者はその倍。マンションや集合住宅があり、広報配布でも問題があ
った。1班でも30戸ほどあるところも。
- ・地域で知恵を絞るしかない。
- ・民生委員をやっている、65歳になった方に要援護者台帳の関係で訪問すると、中には
久しぶりに人と話せて喜んでくれるような人や、何のために生きているかわからないと
いうような、地域から孤立している人もいる。民生委員だけの力ではどうにもならない。
高齢者人口もどんどん増えていく。
元気なお年寄りが助けを必要としているお年寄りのところに行く。
- ・民生委員が教えてくれないと苦情を言われることがある。民生委員が特別扱いされてい
るからではないか。情報共有が必要ではないか。
- ・守秘義務はあるが、コミュニティで最低限知らせる必要もあるのでは。
- ・隣近所の付き合いが大事。
- ・自分の住む町内会は世帯数が少なく、家族と同居している高齢者が多いので、特に地域
福祉の話は出ておらず、問題などはないと思う。
- ・サロンが増えているので、こうした集まりが増えていけば地域のつながりが充実してい
くのでは。
- ・自分の住んでいる地区の民生委員がわからない。民生委員が来たことがない（聴覚障が
いのため気づかなかったかもしれない）
- ・自分の住んでいる町内会は買い物や医療など比較的恵まれている方だと思う。
- ・敬老会はいけないうる人の分をまとめて取りに行ったり、ある程度のつながりがある。
- ・個人情報の問題があるが、町内会程度の規模なら個人情報の取扱が法律にかからないはず。
- ・マンション等で町内会に入ってくれない人が多い。
- ・地域によっては家賃の中に町内会費を含めているところもある。
- ・断水の時は町内会など地域で皆協力していたが、その当時の気持ちを思い出したら
いい。

- ・自殺の防止は、基本は町内会が深く関わっている。そこに民生委員の協力をからめて取り組んでいければいい。
- ・町内会のメンバーが減っている。現状7戸程度しかない。後継者も何も人が居ない。町内会から離れるといった声も出ており、このような現状を鑑みて策定を行っていただきたい。どこの町内会も似たような状態だと思う。
- ・地域に集まる場が少ない。
- ・個人情報の問題が出ている。横のつながりが薄く、お互いに個人情報のため教えられないといった無駄なことをしていると思う。
- ・一人暮らしの方に対して、緊急時のために連絡先を教えてくださいと伝えたと、教えてもらえない方も居る。登録しないとと言われてしまうとその後はなかなか頼むことが出来ない。
- ・災害時要支援者台帳について役所で質問したことがあるが、分からないと言われた。担当部署ではないのかもしれないが、同じ役所から出しているものについて全く知らないというのはどうか。
- ・高齢者の方に、共通の趣味で集まれるような場を作ることで、そこからネットワークが作られるといったこともあると思う。
- ・各々の生活が確立してしまっており、他人に頼る必要がない状態にある。いざ必要となった時に、手助けの出来るネットワークが出来ていない。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・包括支援センターが各地区にあるがどのような事を行っているところなのか知らない人が多い。周知の仕方に問題があるのではないかと。
- ・包括支援センターについては、町内会の方へ何度か周知を行っているが、その時自分に必要な情報でないと聞き流されてしまう。資料をお渡ししてはいるが、それが活用されているかは分からない。
- ・80歳になる母が、夜中でも除雪車の置いた雪を片付けに行く。
- ・「除雪が必要な人は」と声掛けしているのは私たち。でもどこが対象に（社協の間口除雪）なっているのかは教えてもらえない。そこが矛盾している。せめて町内会長くらいには知らせてほしい。10年くらい言い続けている。
- ・民生委員としてもお金を貸しても後始末のみ（生活福祉資金）。社協に文句を言いたい。町内に知らせるのが大事。
- ・除雪も全然やっていないのに4回も補正予算を組んでいる。
町内会、地域の人に、除雪を行ったらハンコをもらうくらいの厳しさがあってもいいのでは。
- ・社協にやってもらうのではなく、自分たちで。
- ・小さい問題でも共有することからやっていかないとこういうものはできない。
社協の評議員会でもかっこいいことが出てくる。そうではなく、企業や法人会が介護保

除料が高いということを上にあげていかないと。

- ・ 除雪も中央通りに出れば心配ない。
- ・ バス助成の見直しをするそうだが、無くなるととても困る。
- ・ バス事業者は赤字で運行しているのはわかっているが、市民に対してあまり大きな負担をさせないでほしい。
- ・ バス券もそうだが、歩いてバス停までいけない方をどのようにカバーするのも課題だと思う。
- ・ これまでは、あと2年で無料バスや公共施設の無料利用が出来る年齢になるので早くこないかと考えていたが、ほかの市町村と比べても無料にするのは財政負担が大きいので、多少負担するべきだと考え方が変わってきた。
- ・ 高齢者だから無料だというのは今後難しいと思う。
- ・ 独居の方や家族が遠方のため、介護サービスが充実していけばいいと思う。
- ・ 昔は住民センターでも葬儀で利用していたが廃れてしまった。
- ・ 若いお母さんが集まりやすい取組を考えていくべき。青森では図書館に冷蔵庫を設置して買い物帰りに来やすい仕組みをつくっている。
- ・ 旭山動物園は障がい者は無料。山の水族館は2割引。もっと手厚くしてほしい。
- ・ 収入の多い少ないで支援策を考えていけばいい。
- ・ 除雪費の問題が出ている。除雪費の値上げもあり、除雪はしっかりしなければならない上に節電をしろと言われる。町内会で除雪をしろと言われても、人手も足りずなかなかうまくいかない。
- ・ 除雪を手伝ってあげたことがあるが、人の家の除雪を勝手にすると言われる場合もある。一概に町内会で手伝えばよいというものではない。
- ・ 除雪を行っているが、皆が歩道へ雪を捨てていくため、道路が通りづらくなってしまう。一人暮らしの高齢者の方の家では、周りに住んでいる方々が手伝いを行っているが、やはり人手が足りない。

IV 暮らしを支える環境づくり

- ・ 北見は災害の少ない町ではあるが、雪で半年閉ざされる。
- ・ 外国では住民が市長よりも偉い。そうなったときに問題解決につながりやすい。
- ・ 北見市は公共施設が多いと思うが、維持していくコストも高いのでは。
- ・ 子育てを安心して行えるような地域づくりを行うべき。

V その他

- ・ 葬儀に関してですが、うちの町内会は一切葬儀に関係しない。葬儀委員長を引き受ける義務もない。5千円の香典のみ。葬儀代はとても高い。昔、市の葬儀部があった。市議が、ある葬儀業者を助けるために市営葬儀部を廃止した。その市議の後援会にその葬儀

業者がいた。私は貧乏だから、新たに市営葬儀部を作ってほしい。

- ・今でこそ思うが金銭問題で市長は立ち往生しているのではないか。
色々批判の声もあるが、それだけの活動をやっているからこそ、大きなお金が出ているのでは。仁頃でも一声かけたらバーッと人が集まる。相内でも東相内でもやっていないところにお金を公平に配るのは不可能であるのに、そこを問題視するというのは矛盾しているのではないか。仁頃とかきちんとやっているところに配慮すべき。
- ・懇談会をやっていることを全然知らなかった。うちの町内会誰も見ていなかった。
- ・今日の話は、聞くだけ聞いて帰ったら聞かない人ばかりだ。
- ・第二期の計画を見ると、いい所だけを取り上げているように見えて、これを実際に行えるかと言われると疑問。現在私の町内会で、この計画をやれと言われても到底できないだろう。
- ・第3期では「誰が」を書くことが必要。第2期では書いていない
- ・何もしなければ何もしないで終わる。
- ・以前放置車があった時に、市の職員が二人で来て紙を貼っていただけで何もしてくれなかった。市の職員がやるべきことはあったのに。なぜできないのか。
行政が応えてくれないと。変なところに金を使うな。
- ・議員さんは何をみているんだ。地域の代表であっても北見市全体を見ていかないと。
- ・この懇談会を行う前にダイジェストなりを配布してくれれば、知識として準備してこれた。
- ・公共施設の利用料値上げの話が立ち消えたが、市民に対しての負担を考えた方がいい。
- ・北見市は自殺が多いので、自殺対策にもっと取り組むべき。
- ・北見市で何を大々的に売り出すのか、よく考えていかなければならない。

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.12 相内地区住民センター】

- 日 時：平成 27 年 7 月 31 日(金) 午後 6 時 30 分～8 時 30 分
 - 会 場：相内地区住民センター
 - 参加者：31 名
 - ・市 民 21 名
 - ・委 員 4 名（照井・金林・三浦・荒）
 - ・事務局 5 名（大栄・高田・持田・川口・松尾）
 - ・社 協 1 名（牧野）
 - 実施形態：座談会形式での意見交換（グループ司会 ①照井 ②三浦）
-

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・人口減少が一番の問題。
- ・人口は中心地に集中していく。
- ・各地域の福祉を担当する人材の育成を行うべきである。（担い手づくり）
- ・高齢化が進んで 65 歳で元気なのは当たり前。80 歳でも元気に過ごせるような意識を。
- ・最近認知症の方からの誤報で救急車を呼んでしまう騒ぎがあったが、老老夫婦から認認夫婦が増えてきて課題になってきていると思う。
- ・老老介護の増加で、自分がいつそうなるかと神経質になっている。
- ・若手だからと町内会の役員になるよう頼まれたが、そんな自分は 65 歳だ。
- ・若いなり手がいないので、人材育成が非常に重要だと思う。
- ・町内会長が引っ張っていくようなリーダーシップも必要だと思う。
- ・高齢者からマナーや知恵を学ぶことも多いので、若い世代から高齢者の世代までつながりが深くなればいい。

II 地域福祉のネットワークづくり

- ・地域福祉というものは市で考えていくべきものではないのか。
- ・力になるのは、行政ではなく隣近所との付き合い。小さなコミュニティのつながりが大切である。
- ・個人情報保護法というのが、まず問題の頭にくる。
- ・町内会での声掛けや挨拶といったつながりが大切である。
- ・子どもの声を町内会の中で聞けることがうれしい。今は子どもが少ない。
- ・安心カードを配っている。
- ・災害が起きた時にどうするか、自助・共助・公助では公助が 1 番遅いので、自助・共助が重要だと思うが、市に対しては公助を迅速に漏れなく対応できる仕組みづくりに取り

組んでほしい。

- ・高齢者は訪問販売などの対象になりやすいので、見慣れない車が停まっていたら声かけをするようにしている。
- ・猛暑の影響で意識がもうろうとしやすい状況にあり、本人も認めない。地域で声かけしていけばいい。
- ・近所内で鍵を預かっているが、田舎だからできることだと思う。
- ・公助の力が抑えられてきて、地域に対して求められることが多くなっている。
- ・地域のコミュニティ組織が崩れている。町内会の催しがあっても参加が少ない。
- ・町内会で葬儀を行わなくなったのも問題。葬儀業者の参入で廃れてしまった。
- ・葬儀業者に頼めば確かに楽だが、集まる機会が減ってしまった。
- ・自分の町内会では班体制で葬儀の役員をするよう心がけている。
- ・町内会活動の中で、小さな工夫で改善されることがあり、役員を実際にやってみないとわからないことばかりだった。
- ・地域で出している広報誌も積極的に取り組んでいければ。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・困っている人がどこに相談すればいいのかわからない。窓口を明確にしてほしい。
- ・除雪の影響で仕方なく中心地へ引っ越していく方もいる。
- ・交通の便が悪く、なかなか集まることができない。
- ・近くにバス停がない。元気な人間が車を出し買い物等の送り向かいができるシステムをうまく構築できないか。
- ・北見市は災害の少ない町だが、除雪の対策は必要。
- ・間口の雪をあけても、除雪車が雪を置いてふさいでいく。
- ・除雪車がおいていく雪のせいで出られないこともある。
- ・市で頼んでいる除雪業者が遠方から来ることもあり、対応が遅い。
- ・除雪業者によって質の違いがある。
- ・路上駐車で除雪できないという問題もあるので、市民の意識も変えていくべき。
- ・介護ヘルパーの中にモラルが欠けている人や時間がないからと話を聞いてくれない人がいる。

Ⅳ 暮らしを支える環境づくり

- ・バリアフリーな街並みづくりが必要である。車いすの方が通りにくい道が多い。
- ・高齢者福祉会館にAEDや車椅子を設置してもらえれば、障がいを持っている方も参加しやすい。

V その他

- ・住民懇談会のチラシだが、各班に1枚送付されてきたが、申込欄が少ない。参加者が多数いた場合を想定して、書く欄を増やすなど配慮が必要だと思う。
- ・今までの実績を踏まえて計画を策定できるのか。間に合わせで行っていないのか。
- ・市への要望があった場合、町内会長から連合町内会に話がいき、そこから支所へ要望する。毎年陳情をあげてはいるが、大きなものについては予算がないということで解決していない状況。細かいことについては支所ですぐ対応してくれる。
- ・電話で事前申し込みをしたはずだが、名簿に書かれていなかった。
- ・市営住宅の申し込みについて、申込書を支所にも置いてほしい。
- ・支所でできることをもっと増やしてほしい。
- ・支所を充実させていくべきである。若い人は市役所まで行くことは出来るが、高齢者は行くことさえ難しい。
- ・支所がもっとしっかり充実していけば今回の周知ももっとうまくいったのではないかと。市民の参加が少ないと思う。
- ・集まった数人の意見だけを聞いて計画を作成していくのはおかしいと思う。
- ・広報、周知に力をいれて、一人でも多くの人に懇談会に参加してもらえるような仕組みや、努力をしたほうがいいと思う。
- ・できるできないは別として、市民からの意見や要望を聞きっぱなしというのはよくないことだと思う。具体的な回答がほしい。
ダメなものはダメではしょうがないが、しっかりと取り組んだうえで回答してもらいたい。
- ・国民年金が満額入る程度では満足に暮らしていけない時代になってしまった。
- ・地域課題は実際に暮らしてみないとわからない面が多いので、自治区や地区の実態を計画の中に細やかに反映させてほしい。
- ・懇談会により多くの人に参加できるようにもっと周知に取り組んでほしい。
- ・行政の会議でよくあることだが、会議や懇談会をやっただけで完了してしまうことが多いので、意見をしっかりと繁栄してほしい。

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.13 小泉地区住民センター】

- 日 時：平成 27 年 8 月 3 日(月) 午後 6 時 30 分～8 時 30 分
 - 会 場：小泉地区住民センター
 - 参加者：31 名
 - ・市民 17 名
 - ・委員 5 名（照井・橋本・三浦・石井・荒）
 - ・事務局 6 名（大栄・高田・坂本・大江・今村・松尾）
 - ・社協 3 名（近江谷、笹森、加藤）
 - 実施形態：座談会形式での意見交換（グループ司会 ①照井 ②三浦）
-

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・子どもが少なくなっている。
- ・町内でも小学校に通っている世帯は 3 世帯ほど（4～5 人）
- ・上ところの除雪ボランティアの例など良い例もあるので、それを事務局から具体例として周知すれば良いのではないか。
- ・広報は読みづらく、内容が入ってこない。北見市は情報の発信能力が弱いように感じる。
- ・広報の受け取りを拒否している人に対し、郵送で送るというのも考慮すべきではないか。

II 地域福祉のネットワークづくり

- ・町内会活動に対する関心の低さ、役員も 1 年ごとに改選される等のルールでやっているところが多く、継続的な活動が定着しない。
- ・町内の世帯構成や、年齢構成は年々変化するものであり都度それに応じた対応・取組をきめ細やかにできるかが大事である。
- ・本日参加している町内会は意識があるのだと考えるが、こういった場に参加しないところが多いのが問題。
- ・町内会への参加率が悪く、特に子供の居る世帯になかなか入ってもらえない。
- ・除雪などについては近隣で助け合って何とかうまく回っている。
- ・民生委員と包括の担当区域割りがバラバラになっており、連携が難しい状態。1つの町内会で担当が 2 人に分かれているところもあり、実際に聞いてみなければ、担当が誰か分からない。
- ・かつては町内会に「子供会」など作って活動していたが今は無くなってしまった。
- ・親も共働きの人が多くなり町内会活動には積極的に参加しない。
- ・交通安全の取り組みは行っている。
- ・日常的に各世帯に関わっている人は必ずいるはず。様々な立場で関わっている人がどの

ように連携するかが重要。

- ・向かいの高齢者夫婦が吹雪の際は業者を呼んで除雪をしているが、町内会としては、言ってくれば町内会で除雪をするのに、という気持ちもある。隣近所で協力して除雪体制がとれれば一番良い。
- ・町内会がどのようにして福祉に関わっていくのか、というのが地域福祉の一番の課題だと思う。
- ・民生委員について、どこで誰がやっているのかわからないという人が大半だと思う。
- ・地域福祉のベースは町内会なので、市は町内会を育てていくべきだと思う。福祉の単位の一つとして町内会を捉えるべきだと思うし、それに伴い予算を付けていくべき。
- ・高齢者を見ていくのを市だけで行うというのは不可能なので、町内会で見ていくべきだと思う。
- ・ごみステーションは町内会の管理だが、よそ者が車で積んできてごみを捨てていくのが一番困る。
- ・町内会でごみステーションを管理しているのだから、町内会でごみを入れられないよう工夫するべき。例えば、向かいの町内会の人のごみを入れてきたのであればしっかりと指導をするべきなのに、角が立つからと言って何もしない人が多い。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・町内の単身高齢者が突然亡くなっていたが、緊急の通報装置などはないのか。また、緊急の連絡先などは誰がどのように把握しているのか。
- ・様々制度があることは理解したが、それぞれ要件が違う。統一的なルールで運用は図れないのか。
- ・10年ほど前に町内会で「声掛け運動」をおこなうことを決めたが、定着せずあまり機能していない。
- ・町内会の関係は希薄。
- ・留辺蘂の多くの自治会は「福祉部」を作り、見守り活動を行っている。
- ・大雪の影響で、単身者は外に出ることが出来ない。そういった時に、市や社会福祉協議会で、どのような対策を取ってくれるのか。
- ・札幌市では片方の歩道しか除雪しない。北見市でも片方の道だけを除雪して、もう片方はそのままにしておく方がいいのではないのか。
- ・ある情報があったとして、その情報を役所、社協、市民などで共有することができていない。役所だけに言えることではないが、その情報を発信するというをしていないから、そこだけの情報になってしまう。

Ⅳ 暮らしを支える環境づくり

- ・除雪機の貸し出しサービスというが、借りたとしても雪をはねる場所がないのが現状。

V その他

- ・ 第3期計画に向けての懇談会なのであれば、事務局から第2期計画の課題点、問題点などを説明した上で懇談に入るべきではないか。
- ・ 第2期計画のフィードバックが全くない。
- ・ この懇談会の存在を知らない町内会長や市民もたくさんいると思う。市は何とか工夫をして、もっと身近なところでこのような懇談会を実施してほしい。

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.14 東相内住民センター】

- 日 時：平成 27 年 8 月 5 日(水) 午後 6 時 30 分～8 時 30 分
- 会 場：東相内住民センター
- 参加者：33 名
 - ・市 民 19 名
 - ・委 員 8 名（照井・石井・金林・高廣・三浦・島田・白幡・荒）
 - ・事務局 5 名（高田・渡部・横地・川口・松尾）
 - ・社 協 1 名（佐藤）
- 実施形態：座談会形式での意見交換（グループ司会 ①照井 ②三浦）

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・引きこもりの人がなかなか地域に出てこない。幼少時から、コミュニケーションの土台づくりをしていくことが重要なのではないか。
- ・介護福祉士の資格を持った人はいるが、他の職についている場合が多い。
- ・介護分野は、3Kという考え方が広まってしまっており、その対応策を考えるべき。方向性としては、教育の場から始める。高齢者に馴染んでもらう。
- ・打開策を立てなければならないが、現在いる人間をうまく使って回していくしかない。仕事の割に給料が安く、介護業界に人を呼ぶには、お金と待遇をよくする必要がある。
- ・辞める原因としては、身体介護で入って、対象者に怪我をさせてしまっは大変だと感じ辞めていく方が多い。ヘルパーさんの定着率が悪い。生活援助の部分は民間にシフトしていくのではと思っている。
- ・介護予防や未病にするための対策をとる必要性がある。
- ・東相内は、子供は若干減っている。相内はもっと子供が減っている。
- ・町内会長の立場がないがしろにされてしまうようであれば、誰もやりたがらず、後継者も育たない
- ・札幌では、家事援助のボランティアのグループができています。

II 地域福祉のネットワークづくり

- ・北見地区では、子どもの挨拶が少ない。不審者等の問題もあり、挨拶をしないと行った所が多い。挨拶や町内の美化運動を行うことで、町内での交流の機会を増やせるのではないか。
- ・平成 13 年度の池田小の事件以来、声をかけられても簡単に返事をしないようにと指導してきた。以来、警察官退職者をスクールガードリーダーとして、学校に配置するようになった。挨拶ができるようになってくる子は増えてきている。

- ・三輪連合町内会では、小学校区単位で声かけ隊を編成している。冬には道路の砂撒きを行っている。
- ・相内には、協働組織ができる前から、「あいさつ通り」という看板が設置されている所がある。
- ・不審者情報は広く発信してもらいたい。転入時はわからない。東相内には子供会など2団体がある。
- ・学校では、不審者情報を保護者にメールでお知らせしている。
- ・町内会の出席者がいない。
- ・町内会の活動は年配の方が多い。若い人は、他の行事に出席する人はほとんどいない。ほとんど、同じ人が参加している。
- ・東相内連合町内会では、各町内会の副会長を福祉委員に任命し、高齢者の情報を共有し、市の福祉課等や民生委員に情報を伝えている。町内で情報を共有する必要があるが、浸透するまでには、時間がかかる。
- ・留辺蘂地区では、自治会の加入率は99.9%で、本町自治会では、「環境・安全部」は年に数回、自治会全体を見守りし、話し合いを持っているし、「福祉部」では、2ヶ月に1回程度、見守りを行っている。本町自治会には、障がい者のグループホーム「さつき寮」も参加している。
- ・北見は町内会の加入率は低い。
- ・東相内は1,300戸のうち、800~950戸くらい町内会に加入している。常呂の町内会費は高い。他のところは、月500円、年間で6,000円程度のところが多い。
- ・最終的には、町内会が動かなければ、解決しない問題ばかりだと思う。町内会が希薄にならないように、町内会長をバックアップし、後世に繋げられる組織作りが重要である。
- ・1つの団体だけで解決できるような問題ではないため、各関係機関との連携、協働が重要である。
- ・まず基本として、町内会の中で、挨拶を掛け合えるようにならなければ、緊急時のネットワークも形作ること出来ない。
- ・東相内には、多くの施設があり、施設の方の協力もあり、車椅子の方でもイベントに積極的に参加できるようになっている。
- ・交流が増えることによって、非行問題の予防にも繋がっている。
- ・向こう3軒の家に挨拶を掛け合えるようになれば、良い町内会になると思う。
- ・マンションが増えてきており、交流が難しくなっている。町内会費の徴収も大家さんから行っており、住民の顔が見えない。
- ・老人クラブの数が減ってきている。町内会同様重要なものであり、クラブが活性化することで、挨拶の掛け合いや孤独死の防止にも繋がってくると思う。
- ・クラブ等は、前提として、楽しみだから行くというものではなく、義務のように、あれをしなければならぬ、これをしなければならぬと考えていては、人はどんどん減ってしまう。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・ヘルパーの仕事は、対象者と1対1の関係で、チームでの対応ではない。一人に対する責任が重すぎる
- ・介護職員の処遇改善交付金はでているが、介護職員の給料では生活していけない。
- ・北見の介護保険料は、比較的高い方だが介護職員の給料との関係は。介護職員の業務は厳しいものがあり、利用者・国・介護事業者の自助努力が必要だ。
- ・東相内には、ゼロ歳児から受け入れる保育所がある。

Ⅳ 暮らしを支える環境づくり

- ・現在いる事業所では、職員の採用が難しい。札幌へ出向き採用活動をしているが、専門学校でも介護福祉士が45%くらいしかいない。現在、市内の高校を回って、高校生をアルバイトとして雇い、介護や認知症の事を学んでもらっている。
- ・高齢者率が高く、病気になったら、北見の病院に行くか、子ども住んでいる所へ行くということで、空家が目立って増えてきており、防犯上、不安がある。
- ・東相内にも、空家はあるが、全体を見てみると、そこまで多いとは思わない。
- ・法人内の障がい者の就労支援(ワークフェア)ではボリュームが増えている。高齢者支援では、人材育成が課題となっている。景気が良くなれば、資格を持っていても、一般企業へ移ってしまう。
- ・北見は子供を産む環境にない。
- ・需要があるものであれば、人は増えていくはず。現状人が減っているということは、需要が無いということであり、それを無理に変えようとして、その地域の住民に影響が出てしまっは、本末転倒である。
- ・その地域で暮らしている人々には、既に確立した生活があるわけだから、それを無理に改めていくというのは間違っている。ある程度距離を置いて、時が経つのを待つというのも解決法の一つだと思う。

Ⅴ その他

- ・第3期の内容をどうやって市民に知らしめているのか。何をやっていくのか。
- ・同じものを作るにせよ、関心を引きやすく、市民への周知がしっかりと行われるようにしてもらいたい。
- ・策定といっているが、今になって問題が発覚したのか。今頃になって市民から言われてから行っているのではないのか。
- ・計画の概要に、地域・地区といった言葉はよく見かけるが、自治連・町内会といった記載がされていない。どの書類を見てもそのような記載を見つけられない。計画には、不可欠なものではないのか。地域住民が始点のはずであり、肝心なことを置き去りにして

しまっているのではないか。

『地域福祉を考える住民懇談会』結果報告 【No.15 東地区住民センター】

- 日 時：平成27年8月7日(月) 午後6時30分～8時30分
- 会 場：東地区住民センター
- 参加者：24名
 - ・市民 16名
 - ・委員 3名(照井・三浦・河井)
 - ・事務局 5名(高田・竹中・川口・今村・松尾)
 - ・社協 0名
- 実施形態：座談会形式での意見交換(グループ司会 ①照井 ②三浦)

出された地域の現状・課題・意見等

I 地域福祉の担い手づくり

- ・昔と比べて、現在の家庭関係やあり方が変わってきていると思う。現在は、若い人は高齢者の面倒を見ないし、その逆も言える。
- ・介護士の仕事を見ていると、本当に大変な仕事だと思う。なり手がいないというのもわかる。
- ・ミント宅配便を利用したいと思っているが、個人では参加できないので、例えば、利用したい人でグループを作って参加できるなど、個人でも参加しやすい仕組みづくりをしていただけるとありがたい。
- ・北見には子育て世代に対する相談場所が少ないように感じる。
- ・ボランティア実践者の発掘と育成がこれからの町内会の課題になってくると思う。具体的な事例などを示していただければ取り組みやすい。
- ・町内会長をやってくれる人がおらず、30年間もやっている。町内にアパートがあるが、町内会になかなか加入してもらえない。
- ・町内会で学習のために「ミント宅配便」を活用している。
- ・「ミント宅配便」など使える制度があることも今初めて知った。情報があっても必要な人に伝わっていないのでは。
- ・必要な情報は広報にも載っていると思うが、興味がない時には見ていない。いざ情報を探そうと思った時に広報を見てもその号には載っていない。

II 地域福祉のネットワークづくり

- ・私の町内会では現在福祉活動にほとんど力を入れていないので、これからできることはできる限りやっていきたい。
- ・町内会では、福祉に関する活動はなかなか協力が得られないので、取り組みづらい。
- ・独居高齢者に対しどのような支援体制で取り組むか、何かあった時の緊急連絡をどうす

- るか、町内会に日常生活でボランティアに取り組んでくれている人はどれくらいいるのかということ把握することを目的に、町内会で住民実態調査というものを行っている。
- ・現在は、向かいに住んでいても班が違えばかけあわないという傾向があるので、表裏の家ではなく、向かい同士の家での班編成を考えている。向かい同士の家が同じ班になれば、意見交換もしやすいのではないか。
 - ・以前は民生委員さんがボランティアで高齢者宅の除雪を行っていたが、あの人の家はやって私の家はやってくれないのかという意見もあって、結局どこの家の除雪もできなくなってしまったという例もある。
 - ・私の町内会は戸数が少なく加入しているのは30戸くらい。広報配布数でいくと70戸はあるはずだが、マンションなどに住んでいる若い人などは加入しない。加入して欲しいというチラシを出しても全く反応がない。
 - ・町内会でコミュニケーションを取るような活動は全くない。人が集まるのは新年会や花見だけ。
 - ・町内会で除雪機を借りたことがあったが、町内会のお金を使っているのに、あそこの家は除雪してここの家は除雪しないのかという問題が出て、借りたのに仲が悪くなってしまったという状況になってしまった。現在は、隣同士で協力して除雪を行っている。
 - ・広報の配布について、町内会に入れば配布を受けられますよというように、町内会加入のメリットとして加入活動を進めている。
 - ・隣同士で話し合えるような場所、環境を作っていくのが町内会の一つの役目だと思う。
 - ・これからは、個人情報問題やマイナンバー制の導入などもあるため、ボランティアをするにも知識が必要になってくると思う。
 - ・町内会が衰退している原因は、エリア内に集まれる場所がないため、身近な人と触れ合える機会がないということ。エリア内にある公共施設を年に数回でも解放するなどしてくれば一番良い。そのような機会がないとコミュニティは存続していかない。
 - ・自分は要介護2の妻と二人暮らしだが、民生委員は年1回のみ訪問である。年1回では顔も覚えられないため、年2回くらいは来てほしい。
 - ・65歳以上の方には全員に実施しており、年に一度としてはいるが、各自で行動している方もおり、日常的に係る機会もある。
 - ・町内会の中で声を掛け合いなどを行っているが、困っているのではないかと思う時に制度の利用や相談を促そうとすると、受け入れてもらえないこともある。
 - ・町内会の加入を勧めようと訪問し、玄関が開いていたので一歩入ったら、住人に「不法侵入で訴えるぞ」と言われてしまった。それ以来その家には勧誘に行くことができないでいる。
 - ・下宿や学生が多いアパートは大家さんに町内会への加入について話をしている。家賃に含めて町内会費を徴収してくれているところもある。防犯灯の電気料やゴミステーションの管理は町内会費で行っていることを根気よく説明し、3年くらいかけてそのような仕組みにした。
 - ・この地域には体育センターや東地区住民センターが集会所としてあるが、徒歩で行くと

なると少し遠い。歩いて5分程度の圏内にお茶を飲んだり碁を打てるような集会所があるとよい。古い家を改修するなどして、集まれる場所があればもっと交流できるのではないか。

- ・社協の地域サロン事業があるが、助成金をもらうため、開設のための申請書や毎年の収支報告書の作成が負担になっている。包括支援センターで記載の補助を行うこともある。
- ・シルバークラブで様々なレクを行っているが、場所が遠く行きづらいという人が居る。
- ・老人クラブも高齢化で会員が減ってきている。例会の会場が2階だと、足が弱って通えなくなる。
- ・老人クラブがどのような活動をしているのか、何曜日にどんなことをしているのかなど、だれに聞いたら教えてくれるのかわからない。

Ⅲ 多様なサービス提供の仕組みづくり

- ・私は障がい者だが、知らないサービスも多数ある。情報がなかなか入ってこないし、どこに相談をすればいいのかもわからない。
- ・現在北見市の介護施設の入居待機者は700人くらいいる。施設に空所があったとしても、それを見るスタッフが不足している。また、スタッフの入れ替わりも激しい。
- ・問い合わせ場所について、困ったときはまず「高齢者相談支援センター」に聞いてみるという周知が必要。
- ・「高齢者相談支援センター」と「障がい者相談支援センター」との連携も必要。高齢の両親と障がい者の子どもが暮らしているという状況が多い。
- ・65歳到達で障がい福祉サービスから、介護保険サービスへの切り替えの時の対応に困っている。

Ⅳ 暮らしを支える環境づくり

- ・意見なし

Ⅴ その他

- ・計画を作るのはいいことだが、全てをやろうとするとお金がかかる。
- ・ゴミの収集について、分別等に問題があった場合、注意書きの書かれた用紙が張られることになると思うが、2週間程度放置するとそのまま回収されてしまう。これでは、意識が変わらないのではないか。
- ・学生が粗大ごみを置いていくことが続いていたが、今は大家さんに協力してもらい、分別について周知しているので、ずいぶんよくなった。
- ・ゴミ袋に世帯ごとの番号を書いてもらうようにし、回収されなかったものは確実に出した家庭が持ち帰る（又は町内会役員が届ける）ようにした。間違いは誰にでもあるとい

うことも含めて周知し、ごみ袋に世帯番号を書いてもらうことにも理解を得られた。（お互いに気を付けて、ごみステーションをきれいにするという取り組みへの理解）

- ・スズメバチが空き家に出入りしており、危険であるため、市のほうに連絡し処理をお願いすると、市のほうでは、勝手に処理することは出来ないと言われた。子供たちも近くに住んでおり、危険だという旨を説明し、最終的に処理してもらった。
- ・持ち主の連絡先も分からず、崩壊等の危険性が出てきたとき、どこに連絡したらよいのかわからない。

「地域福祉を考える住民懇談会」参加状況

開催	開催日	会場	申込者数	参加人数	参加者						主催者	策定委員	社協	事務局	参加総数
					個人	町内会	民生委員	地域包括	他団体	事業者					
1	7月6日(月)	上常呂コミュニティプラザ 多目的室	7	9	1	2	3	0	3	0	14	6	1	7	23
2	7月8日(水)	端野町公民館 研修室	5	7	2	0	1	2	2	0	15	6	2	7	22
3	7月9日(木)	西地区住民センター 大研修室	11	13	5	2	0	6	0	0	12	5	1	6	25
4	7月13日(月)	留辺蘂町公民館 小ホール	28	35	1	13	11	2	5	3	14	4	2	8	49
5	7月14日(火)	常呂町公民館 講座室	3	10	5	0	1	2	1	1	17	6	2	9	27
6	7月16日(木)	温根湯温泉福祉センター 集会ホール	7	10	2	0	5	1	2	0	15	5	2	8	25
7	7月21日(火)	仁頃住民センター 大研修室	4	10	6	0	2	1	0	1	12	6	1	5	22
8	7月22日(水)	高栄地区住民センター 多目的室	24	27	8	3	6	5	5	0	13	6	1	6	40
9	7月24日(金)	南地区住民センター 多目的室	10	11	4	2	1	4	0	0	9	2	2	5	20
10	7月27日(月)	北光地区住民センター 多目的室	8	26	5	3	8	0	1	9	11	6	1	4	37
11	7月29日(水)	中央地区住民センター 多目的室	21	24	10	7	1	3	0	3	16	7	2	7	40
12	7月31日(金)	相内地区住民センター 研修室	19	21	8	0	1	3	9	0	11	4	2	5	32
13	8月3日(月)	小泉地区住民センター 大研修室	18	17	5	9	0	2	1	0	14	5	3	6	31
14	8月5日(水)	東相内住民センター 大研修室	18	19	4	1	4	3	0	7	14	8	1	5	33
15	8月7日(金)	東地区住民センター 多目的室	14	16	5	8	0	3	0	0	8	3	0	5	24
合計			197	255	71	50	44	37	29	24	195	79	23	93	450
割合				100.0	27.8	19.6	17.3	14.5	11.4	9.4	100.0	40.5	11.8	47.7	

第3期地域福祉計画 スケジュール

当日配布資料: 1

事 項	平成26年度				平成27年度												平成28～32年度			
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	～	3	
全体の流れ	12/1	アンケート調査実施												12/下旬	2/月上旬	2/下旬	3/中旬	第3期計画実施 →		
														素案とりまとめ	意見募集	素案提出	公表			
策定委員会全体会議	1	2	3	4							5				6					
	12/29	1/29	2/26	3/26							10/14				2/中旬					
小委員会					1							2		3	4					
					4/14							11/下旬		1/中旬	2/月上旬					
部会会議																				
各部会に係る推進事業説明						1	2													
						5/14～6/8														
各部会課題等洗出し作業							3													
							6/22～30													
地域課題の聞き取り								住民懇談会												
								7/6～8/7												
具体的策定作業											4	5	6							
											10/下旬	11/中旬	12/中旬							

推進事業別 検討シート

第1部会

(第2期計画策定時に使用した資料)

※参考としてご覧ください

推進事業別 検討シート

推進施策 I-1-(1)

学校と地域の連携強化

①福祉教育推進ネットワークの構築

【推進事業に対する委員の意見】

①総合の時間が削減されていく中、これまで通りの計画を見直す必要があるが、学校での創意工夫により福祉教育は少ない中でも実施していく必要がある。学校と地域が連携し、地域住民の協力体制の中で取り組んでいくなれば可能と思われる。

②学校と地域のネットワークは必要。幼年期よりボランティアの意味を知りながら成長すれば、国の為とか、天皇の為とかではない、人類のために必要だと言う事がおのずからわかってくるので、教育部分との係りは大切。

③今後、高齢化がますます進んでいる現状で高齢者や障がい者と連携し、多様な福祉教育を推進していくことが重要である。そこで、学校では「総合的な学習」や「道徳」「特別活動」等の時間を通し、地域で活動している福祉関係者と連携して福祉教育を推進する必要がある。

④学校における福祉教育は総合的な学習時間を活用しているが、この教育活動をより効果的かつ継続的に推進するためには、学校と地域の各種の実際の活動と結合するネットワークづくりは大切であると考えます。

⑤学校との連携は必要。小学生くらいから、ボランティア活動をした方が良いのでは。

その他の委員

●①子ども(小・中生)にとって「厭なこと」「嫌いなこと」「やりたくないこと」などでも学校と地域の協力体制をきちんと構築した上で教育は必要である。②冬季間の高齢者宅などへの中・高生(特にスポーツ部)の除雪のボランティアなどの福祉に関わることは全校的な取り組みを推進できればよい。①と②でも子供や学校にとって参加など協力した「証」の代償も必要である。

●学校での福祉教育を効果的・継続的に進めるには、地域で実際に活動している関係者の積極的な参加と協力が必要だと思います。

●総合的な学習の時間を利用して、車石体験学習や高齢者方麻痺疑似体験など様々七体験学習を実施しており、最近では認知小サポーター要請研修なども行われており、福祉体験を通して相手を思いやる心などを育てていくために、今後益々の取り組みと全市的な広がりが期待されます。

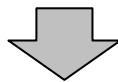
●学校と地域のネットワークについても、教育環境や地域住民をはじめ地域、子ども会、育成会、施設、企業等、地域全体で子供を見守り育てていくために、ネットワークの構築は不可欠であると思います。

【推進事業の評価・検証】

主な評価の視点	評価の結果			判断に至った根拠・理由等
	高い	普通	低い	
住民のニーズはどうか		①③④ ⑤	②	①学校・地域・家庭の連携した取り組みが必要。 ②老人大国になりつつある我国にとっても福祉教育推進は必要。 ③今のところ特に高いとは言えない。 ④学校での福祉活動の大切さは理解していても、差程強いニーズはもっていない。 ⑤もっと積極的に活動に参加することが望ましい。
(その他の委員)	高い	普通 3	低い	●学校と住民との接点が薄く、言葉だけ「地域と学校が一体となって」と踊る。 ●現状では学校・PTA・子供会等一部が動いているが、住民のニーズとしては、一部の町内会を除いて意識は高いとは言えず、課題等について啓蒙が必要。

時代のニーズはどうか	高い	普通	低い	①いつの時代も福祉教育は必要。 ②いつの時代にも必要。 ③ますます福祉教育は必要になってくる。 ④これからの時代的ニーズは一層高いものになっていくにちがいない。 ⑤福祉教育は必要である。	
	④	①②③ ⑤			
(その他の委員)	高い	普通	低い	●地域に住む人々全てが福祉について学ぶべきだ。ボランティアという言葉の変更。 ●少子高齢化が進む中、子供の将来への不安要素は多く、地域連携による子育ては必要である。	
	2	1			
地域別ニーズはどうか	高い	普通	低い	①地域としても必要としている。 ②社会全体に考えても必要。 ③地域のニーズに応える福祉教育は必要。 ④このニーズは地域によってかなり大きなちがいがあると考える。 ⑤これからの時代かならず必要である。	
		①③④ ⑤	②		
(その他の委員)	高い	普通	低い	●地域の人達の高齢化はニーズを狭めていく。 ●子供の多少は地域差はあるが、今後の地域形成においても連携強化は必要。	
		2	1		
終期の有無・設定は必要か	必要		必要なし	①福祉教育に終期はない。 ②今後共必要。 ③福祉教育推進は継続して必要。 ④益々重要視し、学校による福祉教育を活発にしていかななくてはならない。 ⑤福祉はどの時代にも必要である。	
			①②③④⑤		
(その他の委員)	必要		必要なし	●常に継続されるべきではあるが、社会全体の仕組みの中で対応を考えるべきだ。 ●今後ますます重要になってくると思われる。	
			3		
事業を推進する実施主体	市	社協	事業者	市民	①学校ボランティアを推進する社協が望ましい。 ②細部のことを知っている社協を実施主体。 ③学校は社協や市の指導のもと連携して推進。 ④市、社協が中心であろうが、事業者や市民も参加していく体制が大事と考える。 ⑤市、社協、市民が協力して推進する。
	①② ③④ ⑤	①② ③④ ⑤	④	②④ ⑤	
(その他の委員)	市	社協	事業者	市民	●行政と市民が一体とならなければこうした教育は頓挫する。 ●学校における福祉教育(ボランティア活動、体験学習、異世代交流等)への支援等が必要。
	3	2	1	2	

※市民：地域住民、町内会、福祉団体、民生委員児童委員、ボランティア、NPO など



【部会の結果】

主な評価の視点	評価の結果			判断に至った根拠・理由等
	高い	普通	低い	
住民のニーズはどうか				
時代のニーズはどうか	高い	普通	低い	
地域別ニーズはどうか	高い	普通	低い	
終期の有無・設定は必要か	必要		必要なし	

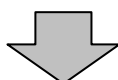
事業を推進する実施主体	市	社協	事業者	市民	

【今後の方向性】

1	強化・拡充を図る	2	現状のまま継続	3	他の事業と統合	4	廃止
④⑤ (③※△印)		②		①③			

その他の委員

1	強化・拡充を図る	2	現状のまま継続	3	他の事業と統合	4	廃止
2		1		1			

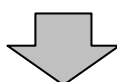


【部会の結果】

1	強化・拡充を図る	2	現状のまま継続	3	他の事業と統合	4	廃止
---	----------	---	---------	---	---------	---	----

【推進事業の必要性・着眼点等】 ※推進事業を策定する上で、事業のあるべき姿などをご記入ください

<p>①次推進施策の福祉教育推進のための地域環境整備と統合して学校における福祉教育の質の向上を目指すべきと考える。学校では体験活動を多く取り入れ、ふれあいの場を持ってほしい。</p>
<p>②偏見、先入観をなくする為にも、幼児期から社会習慣の中で一緒に成長していく事が大切と思う。他者への優しさ、思いやりの心を育む為にも、それは異人種に対しても同様（北見は異人種に接する機会が少ないので。障がい者に接する機会が少ないので）日本国の中でも特に必要と思います。</p>
<p>③地域福祉関係者は、学校への指導や要請に基づいて講師等としていつでも参加協力できる体制を整えておく必要がある。学校では地域福祉教育を進めるために「総合的な学習」や「道徳」「特別活動」等の時間を活用し、福祉関係者の体験談や思いなどを伝えることが必要である。</p>
<p>④子どものころから福祉教育は大切重要と考える。しかし、現実的には、学校教育現場では道徳教育軽視（修身科復活反対などと、ばかげた意見）の中で福祉教育には程遠いのが現実と考えるので、根本的な問題点を解決していく努力が必要と思うので、強化、拡充を図るになるのかなと思う。</p>
<p>⑤各学校事情はあると思うが、出来る範囲で行う事が望ましいのではないかな。</p>
<p>その他の委員</p> <p>●①総合学習の時間とか授業の一環であれば、正規な授業中心主義の今日の指導要綱と合致しないので、始終業は前後1～2時間程度に関連する推進事業を行う。②教育全般は市教委と学校プラス市担当の連絡体制の中で確立する。</p> <p>●子供達にとってボランティア活動、高齢者や障害者との交流、疑似体験を通じ、一人一人がサポートすることの大切さ、地域への思いやりの心を伝えることは具体的実践に結びつくものと期待します。</p> <p>●地域町内会、自治会等、地域を担う子供の育成については、学校を中心とする地域全体が関わりをもって、推進されるべきであり、(幼稚園、保育所を含め)小・中・高の一貫した福祉教育が必要であると思われる。又、福祉教育のための環境整備との統合による推進も必要。</p>



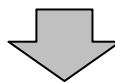
【部会の結果】

【推進事業の優先度】

結果 (A~CにO)		理由	
優先 ランク	A (優先度 高)	③	③アンケートにもある通り、幼い時期から福祉教育を推進し、自然に福祉の中身を知らしめ、理解させ、実行する素地を養うことが涵養である。
	B (" 普通)	② ④ ⑤	②今後益々連携強化必要。 ④学校では教科指導が中心に進められている。これは否定されるものではないが、知育偏重から、バランスのとれた教育活動が求められる。人間として、どう生きるのか。このことを軽視してはいけないと考えられる。 ⑤福祉は必要である。
	C (" 低)	①	①終期を設けず、いつの時代も福祉教育は必要である。

その他の委員

結果 (A~CにO)		理由	
優先 ランク	A (優先度 高)	2	●担い手づくりばかりでなく、社会に対する貢献や自らの行動をしっかりと把握することは次の進学や将来の就職にも役立つ。
	B (" 普通)	1	
	C (" 低)		



【部会の結果】

結果 (A~CにO)		理由	
優先 ランク	A (優先度 高)		
	B (" 普通)		
	C (" 低)		

推進事業別 検討シート

推進施策 I-1-(1) 学校と地域の連携強化

①福祉教育推進ネットワークの構築

事業内容	期間 (年度)	実施主体			
		市	社協	事業者	市民
学校では、総合的な学習の時間※などを活用し、ボランティア活動、高齢者や障がい者との交流、疑似体験など多様な福祉教育を行っています。こうした教育活動を効果的かつ継続的に進めるためには、地域で実際に活動している関係者の積極的な参加と協力が必要です。児童福祉施設や学校と様々な地域の社会資源とを結ぶネットワーク※を構築し、幼少期からの一貫した福祉教育を推進します。	23→27	◎	◎	○	○
	市の所管	社会福祉課 保育課 子ども支援課 学校教育課 教育委員会指導室			

【数値目標】

事業名	実績	計画期間（年度）				
		H23	H24	H25	H26	H27
・福祉教育推進連絡会議※の開催	有	1回	1回	1回	1回	1回

【主要施策に対応し実施した主な事業（取り組み）】

推進事業	① 福祉教育推進ネットワークの構築（P27）
実績状況	下記のとおり
H25年度までに取り組んだ事業	●福祉教育推進連絡会議（社協、小中学校長会） ●学童・生徒のボランティア活動協力指定校連絡会議（社協）
実施主体	社会福祉課、社協、小中学校長会

【住民懇談会・アンケートで出された意見等】

【推進事業に対する委員の意見】 ※委員の率直なご意見をご記入ください

.....

.....

.....

【推進事業の評価・検証】 ※評価の結果に○をつけ、判断に至った根拠・理由等をご記入ください

主な評価の視点	評価の結果	判断に至った根拠・理由等
住民のニーズはどうか	高い・普通・低い	
時代のニーズはどうか	高い・普通・低い	
地域別ニーズはどうか	高い・普通・低い	
終期の有無・設定は必要か	必要・必要なし	
事業を推進する実施主体	市・社協・事業者・市民	

※市民：地域住民、町内会、福祉団体、民生委員児童委員、ボランティア、NPO など

【今後の方向性】 ※今後の方向性に○をつけて下さい

1	強化・拡充を図る	2	現状のまま継続	3	他の事業と統合	4	廃止
---	----------	---	---------	---	---------	---	----



【推進事業の必要性・着眼点等】 ※推進事業を策定する上で、事業のあるべき姿などをご記入ください

.....

.....

.....

【推進事業の優先度】 ※計画の基本目標又は計画全体の中での位置付けをご明示ください

優先ランク	結果(A~Cに○)		理由
	A	(優先度 高)	
	B	(" 普通)	
	C	(" 低)	